

# TASCAM

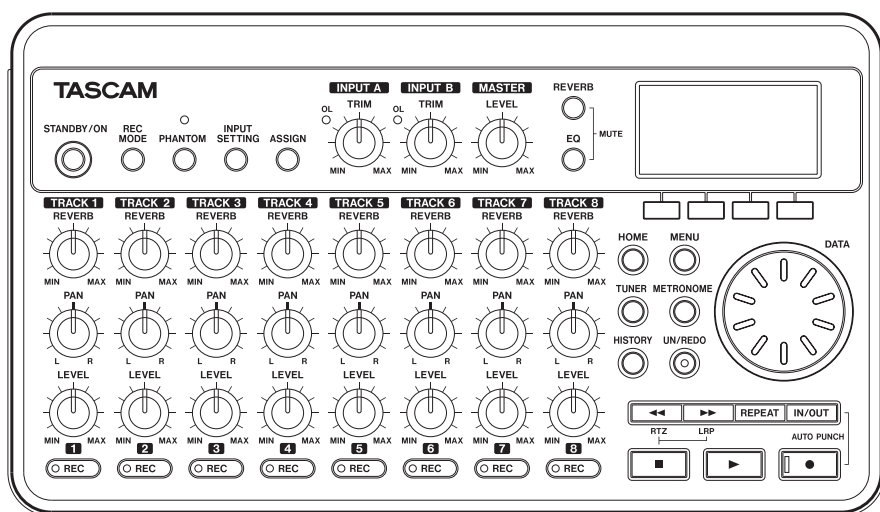
TEAC PROFESSIONAL

D01092501B

# DP-008

## 8-Track Digital Pocketstudio



### 取扱説明書






# 安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。




## 表示の意味

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例

	△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

## 警告

	<p>万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。</p>
	<p>万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p> <p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
	<p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合は、火災・感電の原因となります。</p> <p>船舶などの直流（DC）電源には、接続しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>航空機の運航の安全に支障を及ぼすおそれがあるため、離着陸時の使用は、航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。</p>
	<p>この機器を絶対に分解しないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は、販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>

## ⚠ 注意



移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



オーディオ機器、スピーカーなどの機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器に、ACアダプターを接続する場合は、別売の専用ACアダプター（PS-P520）をご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。

ACアダプター使用時には、コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。



ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。  
耳を刺激する様な大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- ・ 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・ 湿気やほこりの多い場所
- ・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

## 電池の取り扱いについて

本製品は、電池を使用しています。誤った使用による発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

## ⚠ 警告（乾電池に関する警告）



乾電池は、絶対に充電しないでください。  
乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

## ⚠ 警告 (電池に関する警告)



電池を入れるときは、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、電池ケースの表示されているとおりに正しく入れてください。  
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となる場合があります。

保管や廃棄をする場合は、他の電池や金属製のものとは接触しないように、テープなどで端子を絶縁してください。

使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。

指定以外の電池は、使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。  
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となる場合があります。

電池を金属製の小物類と一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートして液もれや破裂などの原因となる場合があります。

電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。  
電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となる場合があります。



液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

液が目に入ったときには、失明の恐れがありますので、目をこすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師にご相談ください。液が体や衣服に付いた時は、皮膚の怪我・やけどの原因になるのできれいな水で洗い流したあと、ただちに医師にご相談ください。

電池の挿入や交換は、本機の電源を切った状態で行ってください。

長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。  
電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となる場合があります。  
もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。



分解しないでください。  
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

# 目次

安全にお使いいただくために .....	2	起動と終了 .....	34
電池の取り扱いについて .....	4	起動する .....	34
		終了する .....	35
<b>第1章 はじめに .....</b>	<b>8</b>	SDカードをフォーマットする .....	35
本機の概要 .....	8	レコーダーモード .....	36
この取扱説明書について .....	8	外部機器との接続 .....	36
取扱説明書の概要 .....	8	リアパネル .....	36
本書の表記 .....	8	右サイドパネル .....	36
本製品の構成 .....	9	コントラストを調整する .....	37
知的財産権に関して .....	9	バックライトを設定する .....	37
SDカードについて .....	10		
取り扱い上の注意 .....	10	<b>第5章 ソングの管理 .....</b>	<b>38</b>
設置上の注意 .....	10	パーティションとソング .....	38
結露について .....	10	アクティブパーティションを変更する .....	38
製品のお手入れ .....	10	名前の編集 .....	39
アフターサービス .....	10	ソングをロードする .....	39
		新しいソングを作成する .....	40
<b>第2章 クイックスタートガイド .....</b>	<b>12</b>	ソングを保存する .....	40
再生とミキシング .....	12	ソング情報を見る .....	41
準備する .....	12	ソングをコピーする .....	41
デモソングを聴く .....	13	ソングを消去する .....	42
録音からマスタリング .....	15	ソングをプロテクトする .....	43
新しいソングをつくる .....	15		
入力ソースを接続する、設定する .....	16	<b>第6章 基本レコーディング .....</b>	<b>44</b>
ギターをTRACK 1の .....	16	入力ソースを選択する .....	44
録音ソースにする .....	17	ファントム電源について .....	44
入力レベル調整とモニター .....	17	入力信号のモニターについて .....	45
TRACK 1にギターを録音する .....	18	OLインジケーター .....	45
再生してみる .....	19	およびレベルメーターについて .....	45
TRACK 2にギターを録音 .....	19	入力をアサインする .....	46
TRACK 3にボーカルを録音 .....	21	INPUT EQを使う .....	47
ミックスダウンする .....	22	レコーディング（最初の録音） .....	47
マスタリングする .....	23	マルチトラック録音 .....	48
終了する .....	25	RECインジケーターを設定する .....	48
		TRACKのパン/レベルを設定する .....	48
<b>第3章 各部の名称と働き .....</b>	<b>26</b>	入力の選択とアサイン .....	48
トップパネル .....	26	入力レベルを設定する .....	49
フロントパネル .....	29	録音をする .....	49
リアパネル .....	29	ミックスダウン .....	49
右サイドパネル .....	30	レベルとバランス .....	49
ボトムパネル .....	31	定位（パン） .....	49
ホーム画面 .....	32	TRACK EQ（イコライザー） .....	49
		リバーブ .....	50
<b>第4章 準備 .....</b>	<b>33</b>	トラックのミュート .....	51
SDカードと電源の準備 .....	33	マスタリング .....	51
SDカードをセットする .....	33	終了点を設定する .....	51
電源を準備する .....	33		

マスタリングを実行する .....	52	第9章 さまざまな機能 .....	68
実行した操作を取り消す（アンドゥ） .....	53	メトロノーム機能 .....	68
最後に行った操作を取り消す （シングルアンドゥ） .....	54	チューナー機能 .....	68
ある操作以降の操作を取り消す （マルチアンドゥ） .....	54	クロマチックチューナーモード .....	69
操作履歴の消去について .....	55	オシレーターモード .....	69
		電源のオートオフ機能 .....	70
		プリファレンス設定を初期値に戻す .....	70
		情報を見る .....	71
<b>第7章 レコーダー機能 .....</b>	<b>56</b>	<b>第10章 SDカードの管理 .....</b>	<b>72</b>
パンチイン／アウト .....	56	パーティションの概要 .....	72
フットスイッチを使った パンチイン／アウト .....	56	カードをフォーマットする .....	72
フットスイッチの極性を設定する .....	56	MTRパーティションを 再フォーマットする .....	73
トラックバウンス .....	57	FATパーティションを 再フォーマットする .....	74
トラックバウンスを行う .....	57	カードをイニシャライズする .....	75
結果を確認する .....	58		
ロケート／サーチ機能 .....	58	<b>第11章 パソコンを使ったデータ送受信 .....</b>	<b>76</b>
ダイレクトロケート機能 .....	58	必要なパソコンシステム .....	76
曲の先頭に戻す（RTZ）／最後に録音を 始めた位置に戻す（LRP） .....	59	パソコンと接続する .....	77
早送り／早戻しサーチ .....	59	接続を解除する .....	77
リピート再生 .....	59	ソングのバックアップとリストア .....	78
IN / OUTポイントを設定する .....	59	ソングをバックアップする .....	78
リピート再生を実行する .....	60	ソングをリストアする .....	79
リピート再生の間隔を設定する .....	60	トラックのインポートとエクスポート .....	80
INポイント／OUTポイントへの ロケート .....	61	トラックをインポートする .....	80
オートパンチイン／アウト .....	61	トラックをエクスポートする .....	81
リハーサル .....	61	ステレオマスタートラックを エクスポートする .....	83
オートパンチイン／アウトの実行 .....	61		
<b>第8章 トラックの編集 .....</b>	<b>62</b>	<b>第12章 トラブルシューティング .....</b>	<b>84</b>
トラック編集の概要 .....	62	<b>第13章 メッセージ .....</b>	<b>85</b>
編集ポイント .....	62	<b>第14章 仕様・ブロックダイアグラム .....</b>	<b>89</b>
編集の基本操作 .....	62	定格 .....	89
各項目の詳細 .....	63	オーディオ入出力定格 .....	89
コピー／ペースト .....	64	オーディオ性能 .....	89
コピー／インサート .....	64	動作条件 .....	90
ムーブ／ペースト .....	65	一般 .....	90
ムーブ／インサート .....	65	バックアップメモリー .....	90
オープン（無音挿入） .....	66	寸法図 .....	91
カット（部分削除） .....	66	ブロックダイアグラム .....	91
サイレンス（部分消去） .....	66		
クローントラック（トラック複製） .....	67	<b>第15章 こんなことをするには .....</b>	<b>92</b>
クリーンアウト（トラック削除） .....	67		

# 第1章 はじめに

このたびは、TASCAM 8-Track Digital Pocketstudio DP-008をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。

本機は、高音質の録音が可能な8トラックのデジタルレコーダーです。操作がわかりやすくシンプルですので、録音操作に悩むことなく、音楽創作に専念することができます。本機の正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいましたようお願い申し上げます。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

また、取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト(<http://www.tascam.jp/>)からダウンロードすることができます。

## 本機の概要

本機は、SDカードを使って、同時最大2トラック、トータル最大8トラックのマルチトラック録音を行うことができます。さらに内蔵のミキサー機能を使ってマルチトラックをステレオにミックスダウンして、ステレオマスタートラックを作成することができます。

こうして作成されたステレオマスタートラックをUSB接続したパソコンに転送することができます。さらに本機とパソコン間でのデータ転送が可能で、個々のトラックデータやステレオマスタートラックをパソコンにコピーしたり、ソングファイルをパソコンにバックアップすることができます。

## この取扱説明書について

### 取扱説明書の概要

「第2章 クイックスタート」をお読みにになると、本機のおおまかな使い方がわかります。お買い上げ後、この章に述べられている操作例に従って、実際に操作してみることをお勧めします。

「第3章 各部の名称と働き」には、パネル上のキー、つまみ、端子などの機能が説明されています。

「第4章 準備」と「第5章 ソングの管理」は、本機をご使用する前にお読みになることをお勧めします。

「第6章 基本レコーディング」～「第11章 パソコンを使ったデータ送受信」までは、本機の使い方と機能が詳しく述べられています。

「第12章 トラブルシューティング」は、本機を操作中に困ったことが起きたときにご覧ください。よくある質問と回答の一覧が記載されています。

「第15章 こんなことをするには」には、こんなことをしたいのに操作方法がわからない、というときにご覧ください。操作方法と参照ページが表にまとめてあります。

### 本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のキー／端子などを「MENUキー」のように太字で表記します。
- 本機の▶キーを「再生【▶】キー」、■キーを「停止【■】キー」、●キーを「録音【●】キー」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“MENU”のように“ ”で括って表記します。
- ディスプレーの下に並ぶ4つのキーをファンクションキーと呼び、左から順にF1、F2、F3、F4キーと表記します。



また、各画面表示の下部に表示される機能を、キー名の後ろにカッコ付きで表記する場合があります。

例：F4 “[▶]” キー、F2 “[EXEC]” キー。

- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイに表示される文字を《OK》のように《 》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

### ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

### メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

### 注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

## 本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 x1
- SDメモリーカード（本体差し込み済） x1
- 単3形（AA）アルカリ乾電池 x4
- USBケーブル x1
- 保証書 x1
- 取扱説明書（本書） x1

## 知的財産権に関して

- TASCAMは、ティアック株式会社の登録商標です。



- SDHCロゴは商標です。
- Microsoft, Windows, Windows XP, Windows Vista および Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple, Macintosh, Mac OS および Mac OS X は、Apple Inc. の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、又は、これらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

# 第1章 はじめに

## SDカードについて

本機では、SDカードを使って記録や再生を行います。

使用できるカードは、512MB以上のSDカードおよびSDHCカードです。

TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

### 取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

### 設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。

振動の多い場所。

窓際などの直射日光が当たる場所。

暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。

極端に温度が低い場所。

湿気の多い場所や風通しが悪い場所。

## 結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

## 製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

## アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細につきましては、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。  
なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。

本機を使ったシステム内のハードディスク、MOディスク、メモリーカードなどの記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。

- 型名、型番 (DP-008)
  - 製造番号 (Serial No.)
  - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。

## 第2章 クイックスタートガイド

### 再生とミキシング

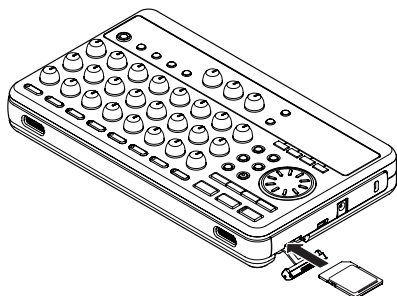
付属のSDカードに収録されているデモソングを再生してみましょう。

なお、本機購入時、デモソングが録音されているSDカードがあらかじめセットされていますが、以下に述べる手順では、SDカードをセットする方法から説明を行います。

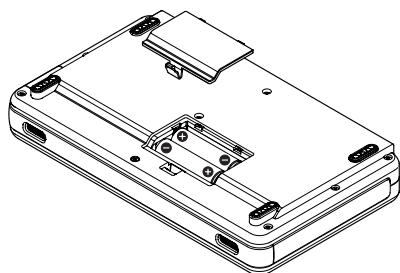
### 準備する

1. 本体右側にあるSDカードスロットカバーを開け、SDカードスロットに付属のSDカードをセットします。

間違った向きに挿入して無理に力を加えると、スロットやカードを破損する可能性がありますのでご注意ください。

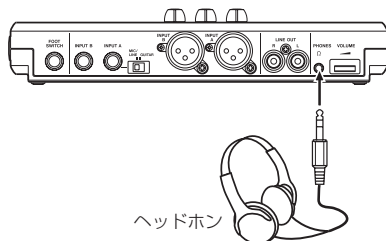


2. 下図のように電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を4本セットします。本機は、アルカリ乾電池の他にニッケル水素電池も使用することができます。



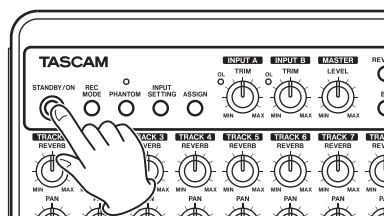
3. SDカードと電池をセットした後、カードスロットカバーと電池ケースのふたを閉じます。

4. 本機のPHONES端子にヘッドホンを接続します。



5. トップパネルのSTANDBY/ONキーを押し続け、ディスプレイに“TASCAM”が表示されたら離します。

本機が起動すると、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。



[ 起動画面 ]



[ ホーム画面 ]

### 注意

- 本機の電源がオンのときにSDカードを抜き差ししないでください。カードを抜き差しするときは、必ず電源をオフにしてから行ってください。

## 第2章 クイックスタートガイド

- 電源がオンのときのSDカードを抜き差しすると、前回のシャットダウン処理以降、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。なお、失われたデータや設定は復活することができません。
- 電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。
- 付属の単3形アルカリ乾電池は、動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。
- 電源を入れる前には、ヘッドホンの音量および本機に接続しているモニターシステムのボリュームを最小にしてください。

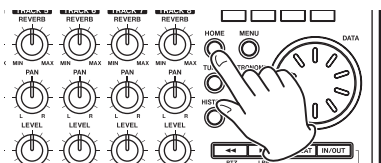
### ヒント

- 別売の専用ACアダプター（PS-P520）を使って電源を供給することもできます。（→ 33ページ「電源を準備する」）
- LINE OUT端子にアンプまたはアンプ内蔵スピーカーを接続することにより、スピーカーを使ってモニターすることもできます。

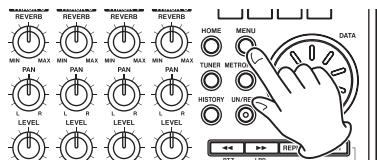
### デモソングを聴く

本機に付属のSDカードには、あらかじめデモソングが収録されています。このデモソングを使って、再生、ミキシングの基本を体験してみましょう。

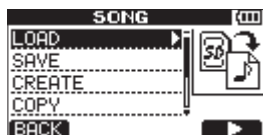
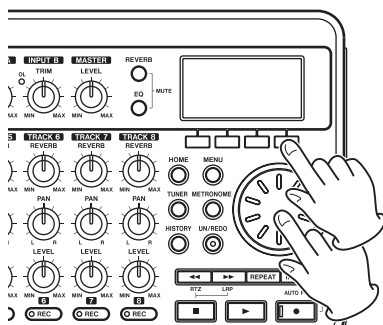
- HOMEキーを押して、ホーム画面を表示します。



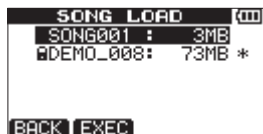
- ホーム画面表示中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。



- DATAホイールを使って“SONG”メニューを反転表示し、F4 “[>]” キーを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。

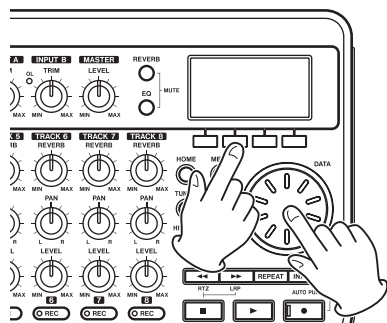


- DATAホイールを使って“LOAD”項目を反転表示し、F4 “[>]” キーを押します。“SONG LOAD”画面に進み、ソングリストが表示されます。

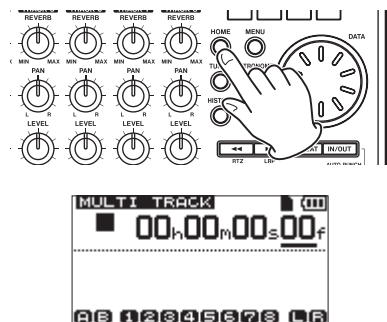


## 第2章 クイックスタートガイド

5. DATAホイールを使って“DEMO\_008”を反転表示し、F2〔EXEC〕キーを押します。  
デモソングがロードされ、“SONG”メニュー画面に戻ります。



6. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

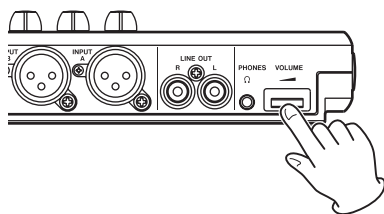
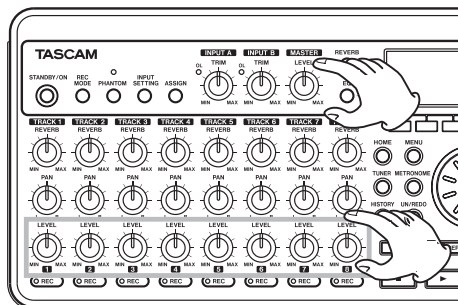


7. 再生 [▶] キーを押して、TRACK1～8のLEVELつまみ、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを上げていくと、デモソングが聞こえてきます。

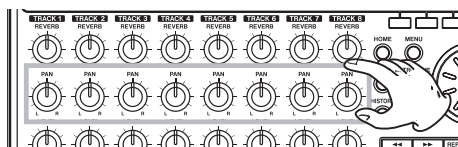
MASTER LEVELつまみは、TRACK1～8の音量をまとめて調節します。MASTER LEVELつまみは、2～3時の位置が標準位置です。

TRACK 1～8のLEVELつまみを使ってトラック間のバランスを調節します。

最終的なモニター音量は、VOLUMEダイヤルを使って調節します。



8. TRACK 1～8のPANつまみを使って、各トラック信号のステレオ定位を設定することができます。



### ヒント

- 停止 [■] キーと◀◀キーを同時に押すと、曲の先頭に戻ります (RTZ = Return To Zero)。
- メニュー操作で、キー操作をまちがえて別の画面が表示された場合は、HOMEキーを押すことによりホーム画面に戻ります。

## 録音からマスタリング

マルチトラックレコーディングを体験してみましょう。以下の例では、エレキギターを使ってリズムギターパートをトラック1、リードギターパートをトラック2に録音した後、内蔵マイクを使って歌をトラック3に録音し、ステレオにミックスダウンを行うまでの手順を説明します。

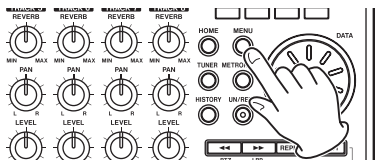
なお、前項の「再生とミキシング」に従って、本機には、すでにモニター機器が接続され、本機が起動し、SDカードがセットされていることを前提にします。

### ヒント

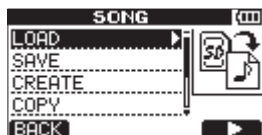
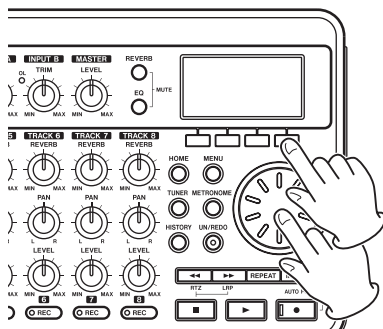
以下の例では、内蔵マイクを使って歌を録音しますが、リアパネルのINPUT A端子またはINPUT B端子に外部マイクを接続して録音することもできます。

## 新しいソングをつくる

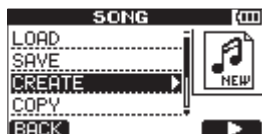
1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。



2. DATAホイールを使って“SONG”メニューを反転し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“SONG”メニュー画面が表示されます。



3. DATAホイールを使って“CREATE”項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“SONG CREATE”画面が表示されます。



作成されるソングには、あらかじめ“SONG\*\*\*” (\*\*\*)は番号) というソングの名前 (タイトル) が付けられます。

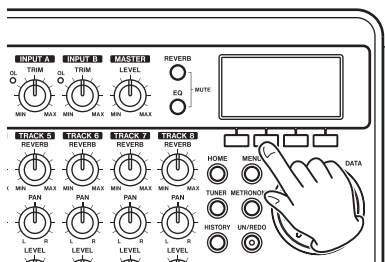


4. 必要に応じてソングの名前 (タイトル) を付けます。( → 39ページ「名前の編集」)

## 第2章 クイックスタートガイド

### 5. F2 “[EXEC]” キーを押します。

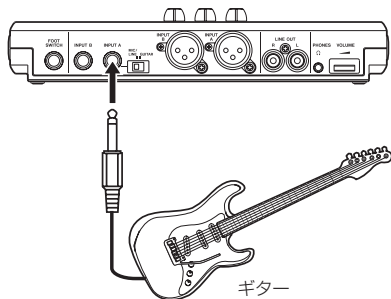
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。



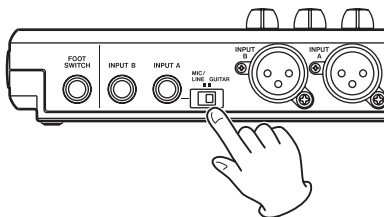
### 6. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

## 入力ソースを接続、設定する

### 1. リアパネルのINPUT A端子にエレキギターを接続します。



### 2. リアパネルのMIC/LINE - GUITAR切換スイッチをGUITARに設定します。

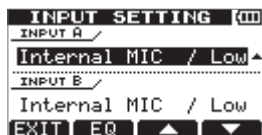
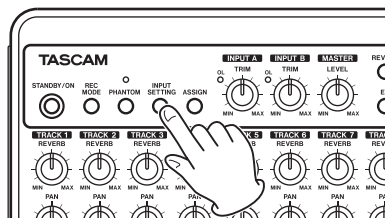


## ヒント

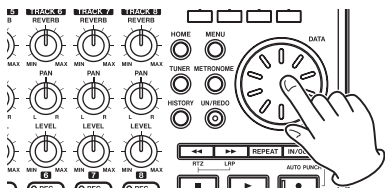
プリアンプ内蔵のエレコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にエフェクターなどを接続する場合は、MIC/LINE - GUITAR切換スイッチをMIC/LINEに設定します。

### 3. INPUT SETTINGキーを押して、“INPUT SETTING”画面を表示します。

“INPUT SETTING”画面で“INPUT A”および“INPUT B”の入力ソースを選択します。最初の状態では、“INPUT A”の現在の入力ソースが反転表示されています。

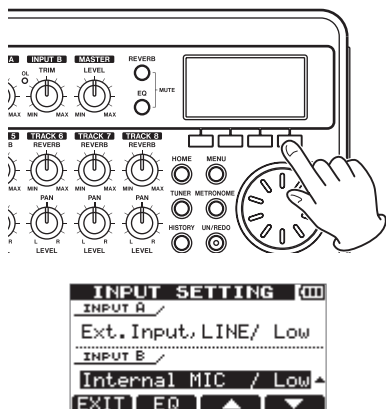


### 4. DATAホイールを使って、“INPUT A”の入力ソースを“Ext.Input,LINE / Low”にします。



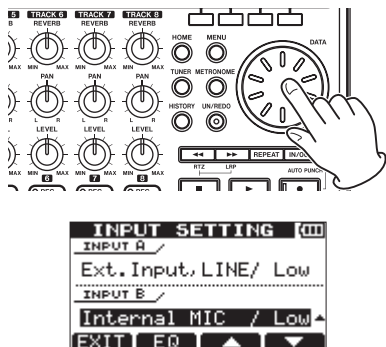


5. F4 “(▼)” キーを押して、“INPUT B” の現在の入力を反転表示します。



6. DATAホイールを使って、“INPUT B” の入力ソースを “Internal MIC/Low” または “Internal MIC/High” にします。

これで、フロントパネルの右側の内蔵マイク (MIC B) が “INPUT B” の入力ソースになります。



そして入力レベル調整時に十分なレベルが得られない場合は、再び “INPUT SETTING” 画面に戻って “Internal MIC / High” に切り換えてください。

7. 設定が終了したら、HOMEキーを押して、ホーム画面に戻ります。

### ギターをTRACK 1の録音ソースにする

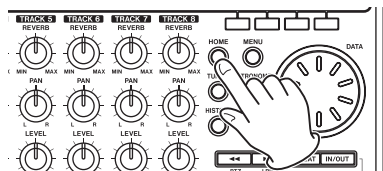
初期設定では、TRACK 1、3、5、7の録音ソースは “INPUT A”、TRACK 2、4、6、8の録音ソースは “INPUT B” に設定されています。

上記 (「入力ソースを接続、設定する」) の入力設定で、“INPUT A” の入力ソースをギター、“INPUT B” の入力ソースを内蔵マイク (MIC B) に設定しましたので、この状態で、ギターをTRACK 1、3、5、7、MIC BをTRACK 2、4、6、8に録音することができます。

したがって、この手順例では入力のアサイン設定を変えずに、ギターをTRACK 1に録音することができます。

### 入力レベル調整とモニター

1. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻ります。



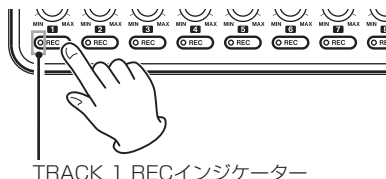
#### メモ

“Internal MIC/Low” と “Internal MIC/High” では、内蔵マイクの感度が異なります。入力の大きさに応じて選択を行います。

どちらに選択したらよいかわからない場合は、“Internal MIC / Low” を選択してください。

## 第2章 クイックスタートガイド

2. TRACK 1のRECキーを押します。RECインジケータが点滅し録音待機状態になります。



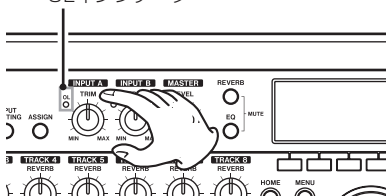
TRACK 1 RECインジケータ

3. INPUT AのTRIMつまみを使って、ギターの入力レベルを調整します。

いちばん大きい音のときにINPUT AのOLインジケータが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。

TRIMつまみを下げてもOLインジケータが点灯する場合は、ギター信号自体が大きすぎますので、ギターの出力レベルを下げてください。

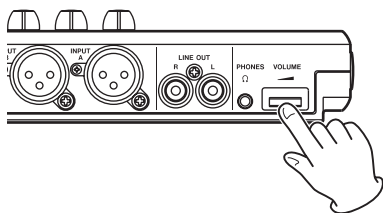
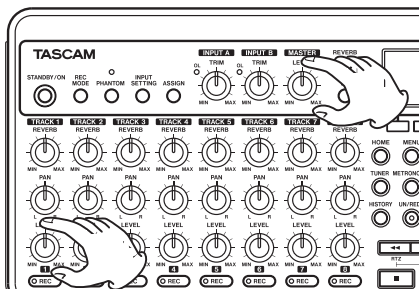
OLインジケータ



ギターを弾くと、ディスプレイの“A” (INPUT A) と“1” (TRACK 1) のレベルメーターに入力レベルが表示されます。



TRACK 1のLEVELつまみとMASTER LEVELつまみとVOLUMEダイヤルを上げると、ヘッドホンからギターの音が聞こえ、ディスプレイの“L”と“R”のレベルメーターが振れます。



### メモ

- TRACK 1のPANつまみを使ってモニター音の定位を設定する事ができます。
- TRACK 1のRECインジケータが消灯しているときは、入力が聞こえません。

## TRACK 1にギターを録音する

1. 録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押して録音を開始し、ギターを演奏します。  
TRACK 1のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。

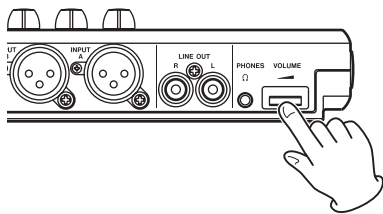
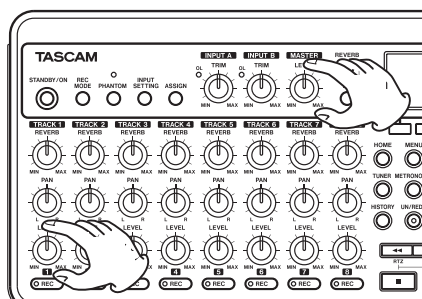


TRACK 1 RECインジケータ

2. 演奏が終了したら停止【■】キーを押して、録音を停止します。
3. TRACK 1のRECキーを押して、RECインジケータを消灯します。

## 再生してみる

1. 曲の先頭に戻すには、**停止【■】**キーを押しながら**◀◀**キーを押します（RTZ =Return To Zero 機能）。
2. 再生**【▶】**キーを押して、録音した**TRACK 1**を再生します。
3. **TRACK 1**の**LEVEL**つまみと**MASTER LEVEL**つまみを使って、再生モニターのレベルを調節します。最終的なモニター音量は、**VOLUME**ダイヤルを使って調節します。



## ヒント

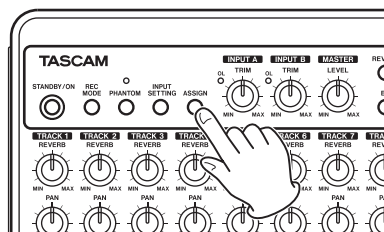
**TRACK 1**の**PAN**つまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

## TRACK 2にギターを録音

**TRACK 1**のリズムギターを聞きながら、**TRACK 2**にリードギターを録音してみましょう。

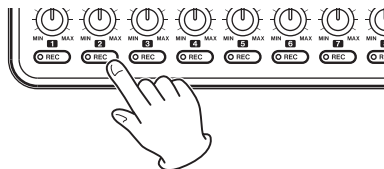
以下の手順で**TRACK 2**の録音ソースを変更します。

1. **ASSIGN**キーを押して、“**INPUT ASSIGN**”画面を表示します。



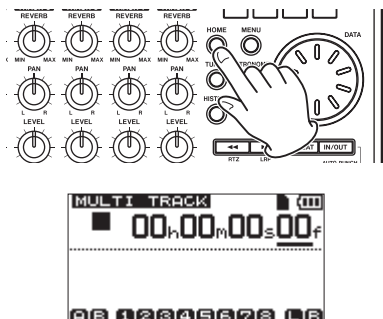
録音**TRACK**ごとに、録音ソースにする入力（**INPUT A**または**INPUT B**）を設定します。初期設定では、**TRACK 1**、**3**、**5**、**7**の録音ソースとして**INPUT A**（“**A**”）、**TRACK 2**、**4**、**6**、**8**の録音ソースとして**INPUT B**（“**B**”）がアサインされています。

2. **TRACK 2**の**REC**キーを押して、“**TRACK 2**”の“**SOURCE**”を“**A**”に設定します。



## 第2章 クイックスタートガイド

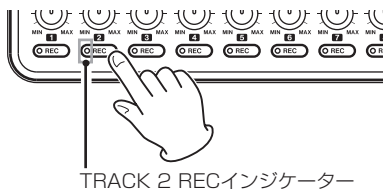
3. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。



4. TRACK 2のRECキーを押します。

RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。

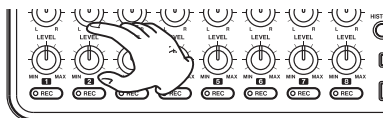
ギターを弾くと、ディスプレイの“A”（INPUT A）と“2”（TRACK 2）のレベルメーターに入力レベルが表示されます。



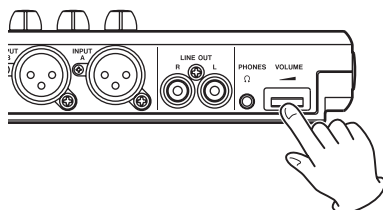
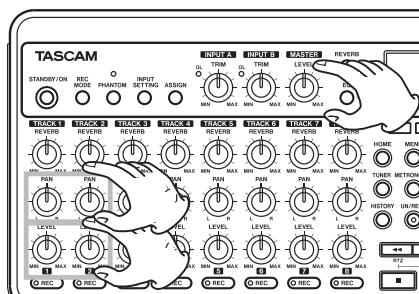
TRACK 2 RECインジケーター

5. 曲の先頭に戻し、レコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターに合わせて、リードギターを演奏してみます。

TRACK 2のLEVELつまみを上げると、ヘッドホンから、TRACK 1の再生音と入力しているギターの音が聞こえます。



6. 必要に応じて、TRACK 1/2のLEVELおよびPANつまみ、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。



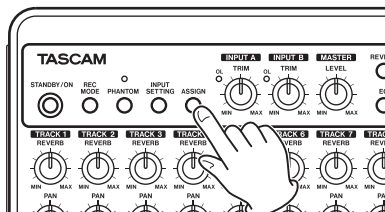
7. 曲の先頭に戻し、録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押して録音を開始し、リードギターを演奏します。  
録音【●】キーが赤く点灯し、TRACK 2のRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。

8. 演奏が終了したら停止【■】キーを押して、録音を停止します。

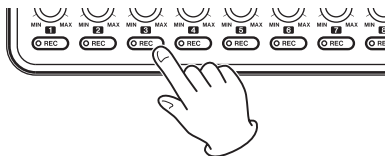
9. TRACK 2のRECキーを押して、RECインジケーターを消灯します。

## TRACK 3にボーカルを録音

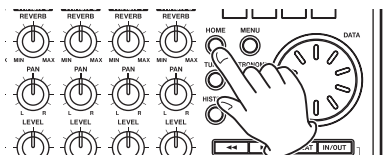
1. ASSIGNキーを押して、“INPUT ASSIGN”画面を表示します。



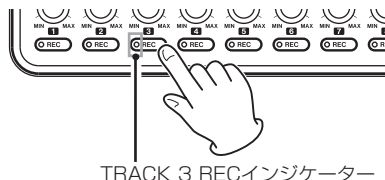
2. TRACK 3のRECキーを押して、“TRACK 3”の“SOURCE”を“B”に設定します。



3. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。



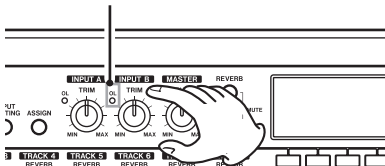
4. TRACK 3のRECキーを押します。  
RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。



TRACK 3 RECインジケーター

5. INPUT BのTRIMつまみを使って、マイクの入力レベルを適正に調整します。  
いちばん大きい音のときにINPUT BのOLインジケーターが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。

OLインジケーター

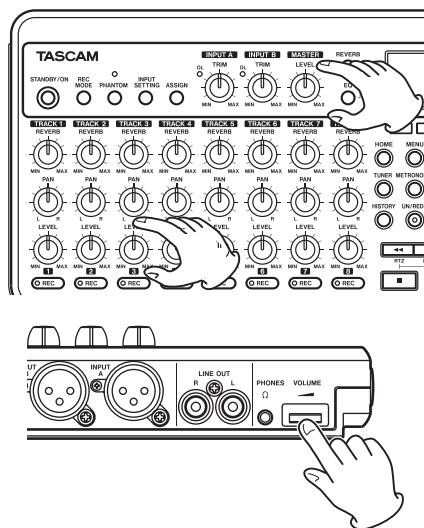


内蔵マイクのMIC Bに音を入れると、ディスプレイの“B”のレベルメーターに入力レベルが表示されます。

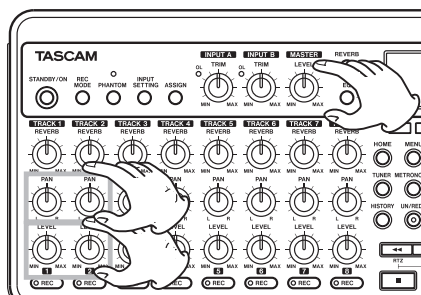


TRACK 3のLEVELつまみとMASTER LEVELつまみとVOLUMEダイヤルを上げると、ヘッドホンからマイクの音が聞こえます。

## 第2章 クイックスタートガイド



7. 必要に応じて、TRACK 1とTRACK 2のLEVELおよびPANつまみ、MASTER LEVELつまみ、VOLUMEダイヤルを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。



8. 曲の先頭に戻し、録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押して録音を開始し、歌を歌います。
- 録音【●】キーが赤く点灯し、TRACK 3のRECインジケータが点滅から点灯に変わります。
9. 演奏が終了したら停止【■】キーを押して、録音を停止します。
10. TRACK 3のRECキーを押して、RECインジケータ消灯します。

### ミックスダウンする

録音が終了したら、ステレオにミックスダウンします。

6. 曲の先頭に戻し、レコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターとリードギターに合わせて、歌ってみます。
- ヘッドホンから、TRACK 1、TRACK 2のギター再生音および歌が聞こえます。

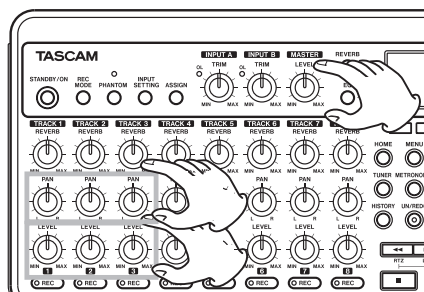
### メモ

TRIMつまみを下げていってもOLインジケータが点灯する場合は、マイク信号自体が大きすぎます。このような場合、入力の選択が“Internal MIC / High”のときは、“Internal MIC / Low”に切り換えてください。“Internal MIC / Low”に設定してもまだOLインジケータが点灯する場合は、音源をマイクから遠ざけるか、あるいは音源の音量を下げてください。

### 注意

マイクを使う場合は、必ずヘッドホンを使ってモニターしてください。スピーカーを使ってモニターを行うとハウリングを起こす可能性があります。

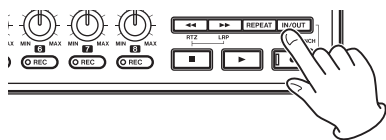
2. TRACK 1～3のPANつまみを使って、ステレオの定位を設定します。  
ディスプレイの“L”と“R”のレベルメーターを監視しながら調節します。



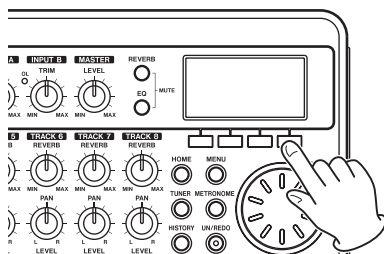
## マスタリングする

納得できるミックスダウンができれば、ステレオマスタートラックを作りましょう。この工程を本機では、マスタリングと呼びます。  
ソングの頭(“00:00:00:00”)からOUTポイントまでの範囲がステレオマスタートラックになります。  
最初にOUTポイントを設定します。

1. IN/OUTキーを押して、“I/O SETTING”画面を表示します。



2. ソングを再生し、ステレオマスタートラックの終了点にしたい位置でF4 “[OUT]” キーを押します。  
“SET OUT !” がポップアップ表示されます。

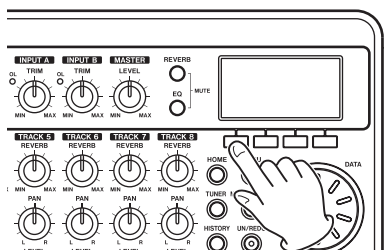


この位置がOUTポイントとして設定され、マスタリングの終了点になります。

## ヒント

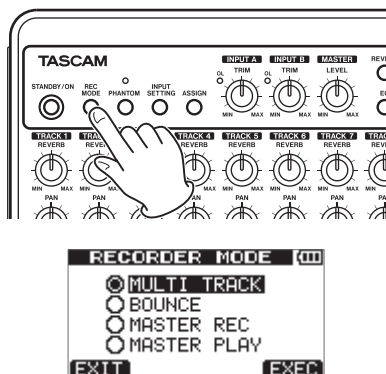
停止中にF4 “[OUT]” キーを押しても、OUTポイントを設定することができます。

3. F1 “[EXIT]” キー(またはHOMEキー)を押して、ホーム画面に戻します。

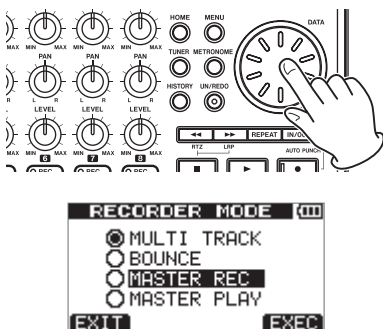


## 第2章 クイックスタートガイド

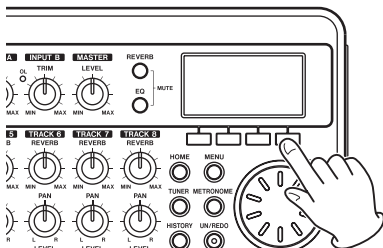
4. REC MODEキーを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。



5. DATAホイールを使って“MASTER REC”項目を反転表示します。



6. F4 “[EXEC]”キーを押します。  
本機がマスターレコーディングモードになり、ホーム画面に戻ります。

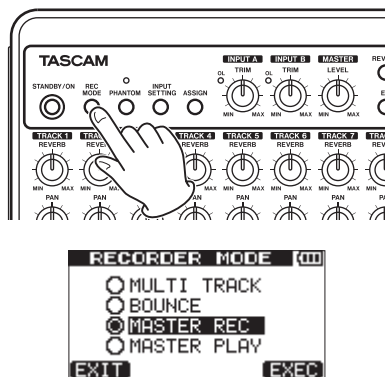


7. 録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押します。  
ステレオマスタートラックの録音が始まります。  
OUTポイントまで来ると、自動的に録音を終了します。

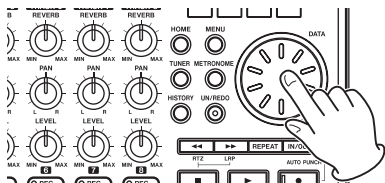
### メモ

録音中にLEVELつまみを使って各TRACKのレベルや全体のレベルを変えることもできます。

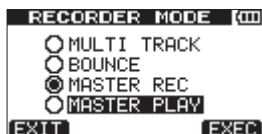
8. REC MODEキーを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。



9. DATAホイールを使って“MASTER PLAY”項目を反転表示します。

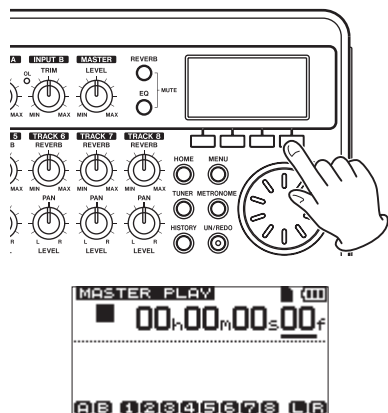






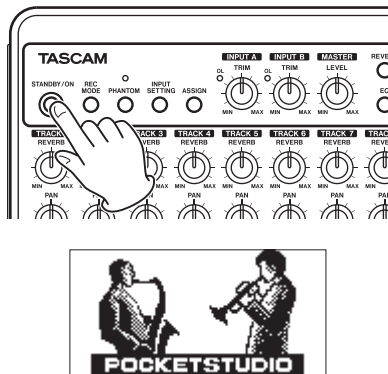
## 10. F4 “EXEC” キーを押します。

本機がマスター再生モードになり、ホーム画面に戻ります。



## 11. この状態で再生【▶】キーを押すと、作成したステレオマスタートラックを聞くことができます。

## 2. STANDBY/ONキーを押し続け、ディスプレイに“POCKETSTUDIO”が表示されたら離します。



本機が自動的にシャットダウン動作（今まで操作した各種情報の記録）を行った後、電源がオフになります。

終了するときは、必ず上記の手順で正しく終了してください。

### メモ

“MASTER PLAY” モードでは、MASTER LEVELでのレベル調整はできません。

### 注意

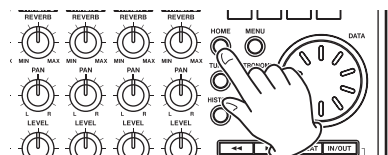
電池を外したり電源コードを抜くなどをして電源を切ると、前回のシャットダウン処理、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定がすべて失われます。

なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

## 終了する

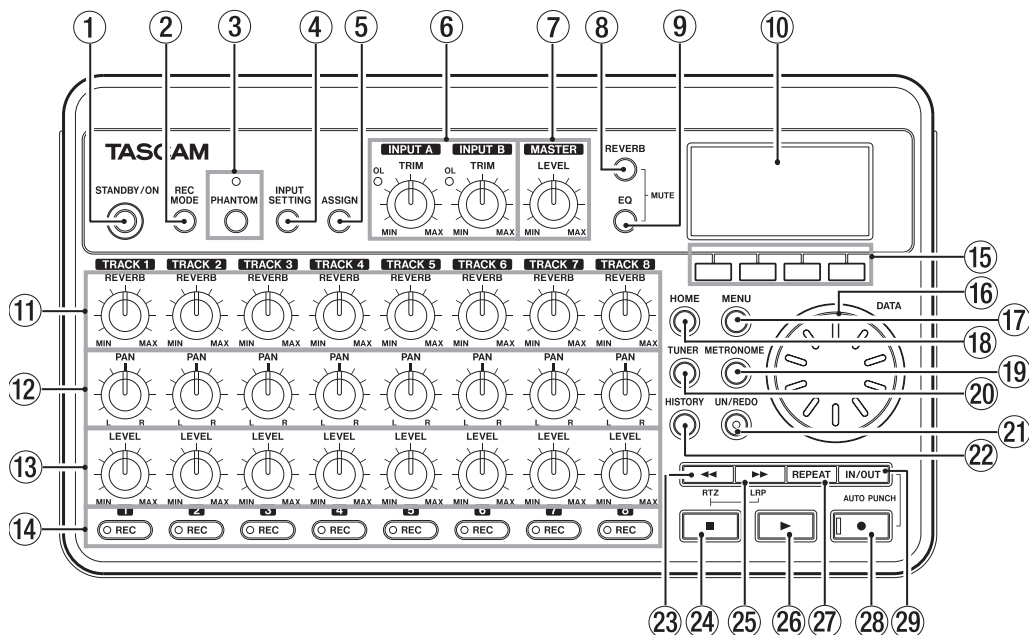
作業が終了したら本機を終了します。

## 1. HOMEキーを押して、ホーム画面を表示します。



# 第3章 各部の名称と働き

## トップパネル



### ① STANDBY/ONキー

電源のオン／オフを行うときにこのキーを長押しします。(→ 34ページ「起動と終了」)

### ② REC MODEキー

レコーダーモードを設定します。“MULTI TRACK”、“BOUNCE”、“MASTER REC”、“MASTER PLAY”の中から選択します。(→ 36ページ「レコーダーモード」)

### ③ PHANTOMキー／インジケータ

ファントム電源の設定画面を表示します。  
ファントム電源がオンのときにインジケータが点灯します。

### ④ INPUT SETTINGキー

入力ソースを選択します。(→ 44ページ「入力ソースを選択する」)

### ⑤ ASSIGNキー

各TRACKの入力 (INPUT AまたはINPUT B) を設定 (アサイン) します。このキーを押すとディスプレイに “INPUT ASSIGN” 画面が表示されます。アサインされた入力の入力信号が録音ソースになります (→ 46ページ「入力をアサインする」)。

### ⑥ INPUT A、B TRIMつまみ／OLインジケータ

TRIMつまみを使って、INPUT A、INPUT Bそれぞれの入力レベルを調節します。(→ 47ページ「レコーディング (最初の録音)」)  
入力ソースの信号が大きすぎるとOL (オーバーロード) インジケータが点灯します。

## ⑦ MASTER LEVELつまみ

ステレオ出力信号のモニターレベルを調節します。

バウンス時やミックスダウン時やマスタリング時には、録音レベルを調節します。

## ⑧ REVERBキー

リバーブ設定画面を表示します。(→ 50ページ「リバーブ」)

このキーとEQキーを同時に押すと、ミュート画面を表示します。(→ 51ページ「トラックのミュート」)

## ⑨ EQキー

TRACK EQの設定画面を表示します。(→ 49ページ「TRACK EQ (イコライザー)」)

このキーとREVERBキーを同時に押すと、ミュート画面を表示します。(→ 51ページ「トラックのミュート」)

## ⑩ ディスプレー

各種情報を表示します。

## ⑪ REVERBつまみ

(TRACK 1～ TRACK 8)

各TRACKの再生音やTRACKにアサインされた入力信号のリバーブエフェクトに送るレベル(音量)を調節します。

## ⑫ PANつまみ (TRACK 1～ TRACK 8)

各TRACKの再生信号やTRACKにアサインされた入力信号のステレオ定位を調節します。(→ 49ページ「定位 (パン)」)

## ⑬ LEVELつまみ (TRACK 1～ TRACK 8)

各TRACKの再生信号やTRACKにアサインされた入力信号のモニターレベルを調節します。(→ 49ページ「レベルとバランス」)

## ⑭ RECキー／インジケーター (TRACK 1～ TRACK 8)

各TRACKのレコードファンクションをオン／オフします。入力音をヘッドホンやモニターシステムでモニターする場合は、該当TRACKのRECキーを押します。RECキーをオンにすると、レコーダーが停止しているときは、RECインジケーターが点滅し、録音しているときは点灯します。

## ⑮ ファンクションキー

ディスプレイに表示している画面によって、機能が変化するキーです。ディスプレイ表示画面の下部に表示中の機能が現在割り当てられている機能です。

### メモ

- 本取扱説明書では、便宜上4つのファンクションキーを左から順にF1、F2、F3、F4キーという名前で表記します。
- ファンクションキーは、ホーム画面で以下の機能に割り当てられています。

停止 [■] +F1：INポイントへロケート

停止 [■] +F2：OUTポイントへロケート

F3：INポイントのキャプチャー

F4：OUTポイントのキャプチャー

## ⑯ DATAホイール

メニュー操作中、パラメーターの値を変えたり項目を選択するときに使います。

## ⑰ MENUキー

“MENU” 選択画面を表示します。

## ⑱ HOMEキー

ホーム画面を表示します。

また、停止中でホーム画面表示中は、カウンターの桁移動を行います。(→ 58ページ「ダイレクトロケート機能」)

## 第3章 各部の名称と働き

### ①9 METRONOMEキー

メトロノームの設定画面を表示します。(→ 68ページ「メトロノーム機能」)

### ②0 TUNERキー

チューナーの設定画面を表示します。(→ 68ページ「チューナー機能」)

### ②1 UN/REDOキー／インジケーター

直前の操作の取り消し(シングルアンドゥ)、およびシングルアンドゥの取り消し(リドゥ)を行います。(→ 53ページ「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」)

シングルアンドゥまたはマルチアンドゥを実行して取り消した操作があるとき、UN/REDOインジケーターが点灯します。

### ②2 HISTORYキー

録音／編集の履歴を表示します。“HISTORY”画面で複数の操作を取り消すマルチアンドゥを行うことができます。

### ②3 ◀◀ [RTZ] キー

停止中や再生中にこのキーを押すと早戻しを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1,000倍と変化します。

**停止【■】** キーを押しながらこのキーを押すと、ソングの先頭(“00:00:00:00”)にロケートします。(→ 58ページ「ロケート／サーチ機能」)

### ②4 停止【■】キー

再生、録音、早送り／早戻しを停止します。また、◀◀キーや▶▶キーとの同時押しによって、ソングの先頭(RTZ)、あるいは最後に録音を始めた位置(LRP)にロケートすることができます。(→ 58ページ「ロケート／サーチ機能」)

### ②5 ▶▶ [LRP]キー

停止中や再生中にこのキーを押すと早送りをを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1,000倍と変化します。

**停止【■】** キーを押しながらこのキーを押すと、最後に録音を始めた位置(LRP)にロケートします。(→ 58ページ「ロケート／サーチ機能」)

### ②6 再生【▶】キー

再生を始めるとき、このキーを押します。

また、録音を始めるとき、**録音【●】** キーを押しながらこのキーを押します。録音中にこのキーを押すと、録音を終了して再生になります(パンチアウト)。

### ②7 REPEATキー

リピート再生モードのオン／オフを行います。(→ 59ページ「リピート再生」)

### ②8 録音【●】キー／インジケーター

録音を始めるとき、このキーを押しながら**再生【▶】** キーを押します。録音中、インジケーターが点灯します。

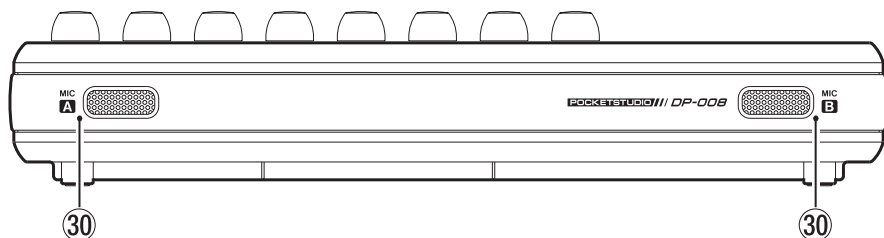
また、いずれかのTRACKのRECインジケーターが点滅しているとき、再生中にこのキーを押すと録音が始まります(パンチイン)。(→ 61ページ「オートパンチイン／アウト」)  
このキーを押しながらIN/OUTキーを押すと、オートパンチイン／アウトモードに入ります。

### ②9 IN/OUTキー

“I/O SETTING”画面を表示し、リピート再生やトラック編集の始点(INポイント)と終点(OUTポイント)を登録します。(→ 59ページ「IN / OUTポイントを設定する」)

**録音【●】** キーを押しながらこのキーを押すと、オートパンチイン／アウトモードに入ります。

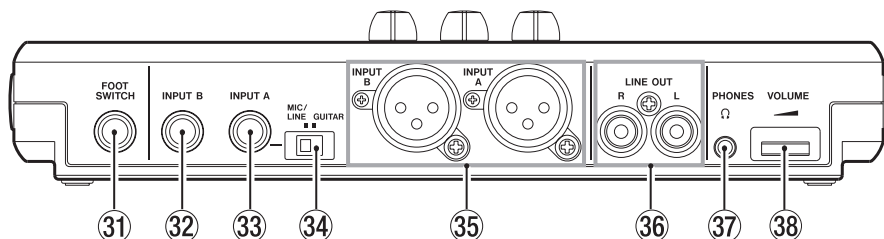
## フロントパネル



### ③① MIC A/B

内蔵の無指向性マイクです。INPUT A/Bの入力として、内蔵マイク（“Internal MIC / Low”、“Internal MIC / High”）を選択したときの入力ソースになります。

## リアパネル



### ③① FOOT SWITCH端子

フットスイッチによるパンチイン／アウト（録音のスタート／ストップ）が可能です。

### ③② INPUT B端子（標準ジャック）

“INPUT SETTING”画面で、INPUT Bの入力として外部入力（“Ext. Input”）選択したときの入力ソースになります。ライン信号（アンバランス）またはマイク信号（アンバランス）を入力することができます。

### ③③ INPUT A端子（標準ジャック）

“INPUT SETTING”画面で、INPUT Aの入力として外部入力（“Ext. Input”）を選択したときの入力ソースになります。ギター／ライン信号（アンバランス）またはマイク信号（アンバランス）を入力することができます。入力ソースに応じてMIC/LINE - GUITARスイッチを設定します。

## 第3章 各部の名称と働き

### ③④ MIC/LINE-GUITARスイッチ

リアパネルのINPUT A端子に入力する信号ソースに合わせて設定します。マイクやライン信号を入力するときは**MIC/LINE**、エレキギターやエレキベースを直接入力するときは**GUITAR** に設定します。

### ③⑤ INPUT A/B端子 (XLR端子)

XLRタイプのマイク／ライン入力端子です。ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクも接続可能です。  
(1 : GND、2 : HOT、3 : COLD)

#### メモ

XLR端子と標準ジャック両方に、機器を接続した場合は、標準ジャックが優先されます。

### ③⑥ LINE OUT端子

モニターシステム (パワードスピーカーまたはアンプとスピーカー) を接続します。

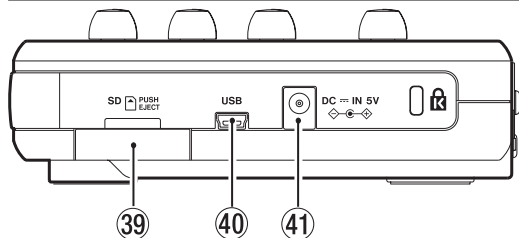
### ③⑦ PHONES端子

ヘッドホンを接続します (ステレオミニジャック)。

### ③⑧ VOLUMEダイヤル

PHONES端子の出力ボリュームを調節します。

## 右サイドパネル



### ③⑨ SDカードスロット

SDカードをセットするスロットです。

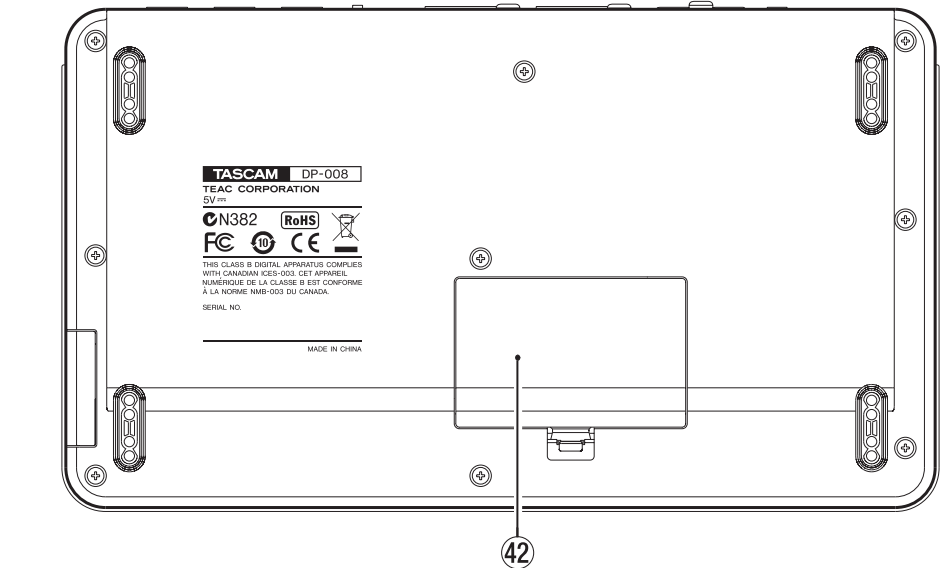
### ④⑩ USBポート

付属のUSBケーブルを使ってパソコンと接続します。パソコンとのファイル共有や、インポート、エクスポート、ソングファイルのバックアップが可能です。( → 77ページ「パソコンと接続する」)

### ④⑪ DC IN 5Vジャック

別売の専用ACアダプター (PS-P520) を接続します。

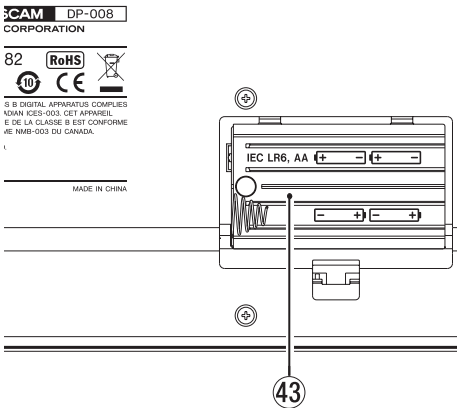
## ボトムパネル



### 42 電池ケースふた

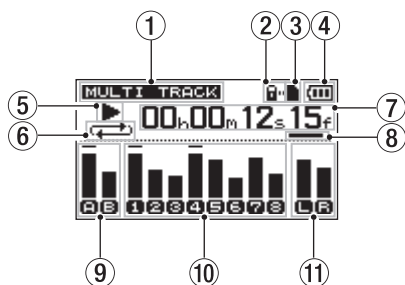
### 43 電池ケース

本機の電源になる電池（単3形電池、4本）を収納するケースです。



[ 電池ケースふたを外した状態 ]

### ホーム画面



#### ① レコーダーモード表示

現在のレコーダーモードを表示します。

#### ② SDカードプロテクト表示

SDカードがプロテクトされているときに点灯します。

#### ③ SDカードの有無表示

SDカードがセットされているときに「■」を表示します（セットされていないときは「□」を表示）。

#### ④ 電源状態表示

電池駆動時は、電池アイコンを表示します。  
電池残量に応じて目盛りが表示されます（「■」、「□」、「□」）。  
目盛り表示がなくなると「□」、電池切れのためにも電源がオフになります。  
別売の専用ACアダプター（PS-P520）使用時は、「AC」を表示します。

#### ⑤ レコーダーのトランスポート状態表示

再生時は「▶」、停止時は「■」、録音時は「●」を表示します。

#### ⑥ リピート再生/オートパンチモード表示

リピート再生モード中、「▶」を表示します。  
オートパンチモード時「Auto Punch」を表示します。

#### ⑦ レコードのタイムカウンター表示

ソングの先頭からの経過時間を表示します。

#### ⑧ 時間編集対象桁を示すカーソルキー表示

DATAホイールを回すと、カーソル位置の時間桁の値が変わります。

#### ⑨ INPUT A/Bのレベルメーター、およびINPUT EQ状態表示

それぞれINPUT A（「A」）、INPUT B（「B」）の入力ソースの信号レベルを表示します。  
INPUT EQがオンのときは、「A」または「B」に枠が表示されます（「A」）。

#### ⑩ レコーダー TRACK 1～8のレベルメーター、およびミュート／TRACK EQ状態表示

録音時は入力（録音）信号、再生時は再生信号のレベルを表示します。  
トラックミュートされているTRACKは、TRACK番号表示が反転します（「1 2 3 4」）。  
ミュートがオフでTRACK EQがオンのときは、TRACK番号の枠が表示されます（「1 2 3 4」）。

#### ⑪ ステレオ出力（L、R）のレベルメーター表示

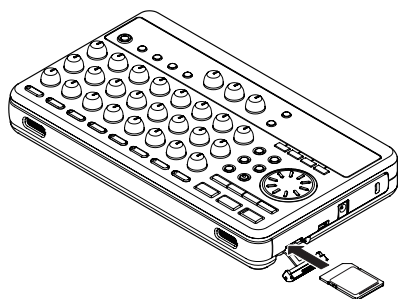
LINE OUT端子からの出力信号レベルを表示します。



## SDカードと電源の準備

### SDカードをセットする

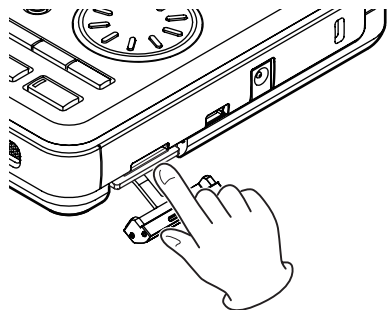
1. 本体右サイドパネルにあるSDカードスロットを開けます。
2. SDカードスロット部にSDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



3. カードをセットしたら、カバーを閉めます。

### カードを取り出すには

セットされているカードを奥に押すと手前出てきます。



### 注意

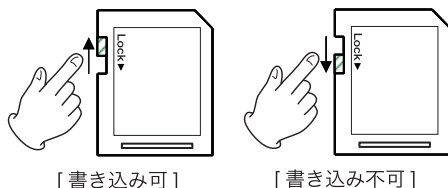
電池やSDカードを抜き差しする場合は、必ず電源をオフにしてから行ってください。電源がオンのときに抜き差しすると、前回の終了処理、

もしくはソングセーブ以降の記録データや設定がすべて失われます。

なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

### カードのライトプロテクトについて

SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。



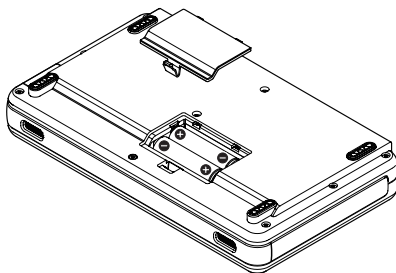
プロテクトスイッチをLOCKの方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、書き込み禁止を解除してください。

### 電源を準備する

本機は、単3形電池4本または別売の専用ACアダプター（PS-P520）を使って電源を供給します。本機は、単3形アルカリ乾電池および単3形ニッケル水素電池も使用することができます。

### 電池で使用する

本機のボトムパネルに電池ケースがあります。この中に単3形電池4本を電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせてセットします。



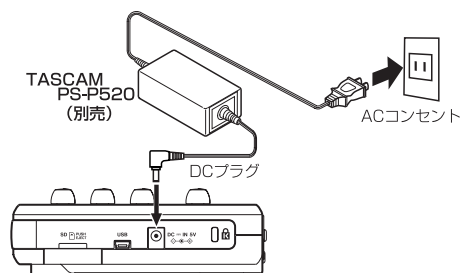
## 第4章 準備

### 注意

- 本機には、充電機能はありません。
- 付属のアルカリ乾電池は動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。

### ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（PS-P520）をDC IN 5V端子に接続します。



### 注意

- ACアダプターで使用する場合は、必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520）と電源コードを接続してください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本機への電源供給は、電池またはACアダプターからとなります。USB経由での電源供給は行いません。

### メモ

電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

## 起動と終了

### 起動する

トップパネルのSTANDBY/ONキーを押し続け、“TASCAM”が表示されたら離します。

本機が起動すると、ディスプレイに以下の画面（ホーム画面）が現れます。



〔起動画面〕



〔ホーム画面〕

起動時のレコーダーモードは、（前回終了時のレコーダーモードにかかわらず）常に‘MULTI TRACK’モードです。

### 注意

本機の電源のオン／オフ操作は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。また、電源オン／オフ操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによってスピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

## 終了する

本機を終了するには、あらかじめ以下の準備を行います。

- レコーダーを停止します。(再生中、録音中、早送り中などは本機を終了できません。)
- ディスプレーをホーム画面に戻します。
- パソコンとUSB接続している場合は、パソコンから本機を正しい手順で取り出してからUSBケーブルを外します。

準備ができたら、以下の画面が表示されるまで **STANDBY/ON** キーを押し続けます。



シャットダウン処理(今まで操作した各種情報の記録)が実行された後に、電源がオフになります。

### 注意

- 電源がオンのときに電池を外したり電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。前回のシャットダウン処理、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定がすべて失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。
- 電源をオフにすると、現在ロードされているソングの操作履歴がすべて消去(クリア)されます。再度電源をオンにしたときは、前回の電源オフ時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

## SDカードをフォーマットする

新しいSDカードを使用するには、初期フォーマットが必要です。本機は、SDカードをFATパーティションとMTRパーティションに分割します。SDカードの容量が大きい場合は、複数のMTRパーティションに分割することもできます。

パーティションに関する詳しい説明は、「第10章 SDカードの管理」(72ページ)をご覧ください。

### 注意

付属のSDカードは、フォーマット済みですので初期フォーマットする必要がありません。フォーマットを行うと、あらかじめ記録されているデモソングが消去されてしまいます。

1. 新しいSDカードを本機に最初にセットすると、フォーマットを促すメッセージがポップアップ表示されます。



### メモ

本機以外の機器でフォーマットを行ったSDカードをセットした場合も、フォーマットを促す上記のメッセージがポップアップ表示されます。

### 注意

フォーマットを実行すると他の機器で記録されたデータもすべて消去されて復元できなくなりますのでご注意ください。

2. **F3 “[YES)”** キーを押します。

カード容量に応じて、標準的なパーティション設定でフォーマットが行われます。

フォーマットが正常に終了するとホーム画面が表示されます。

## 第4章 準備

### メモ

- フォーマットを実行しない場合は、F4 “[NO]” キーを押します。
- カード容量によっては、あとからパーティション設定を変更できる場合があります。その場合は、“CARD” メニューの“FORMAT” 項目でパーティションサイズを設定してからフォーマットを行います。(→ 72ページ「第10章 SDカードの管理」)

## レコーダーモード

本機には、4つのレコーダーのモードがあります。

### ● MULTI TRACK

本機がマルチトラックレコーダーとして動作します。

### ● BOUNCE

トラックバウンスを行います。(→ 57ページ「トラックバウンス」)

### ● MASTER REC

マスタリングを行い、ミックスダウンしたステレオマスタートラックを作成します。(→ 51ページ「マスタリング」)

### ● MASTER PLAY

作成したマスタリングトラックを再生します。

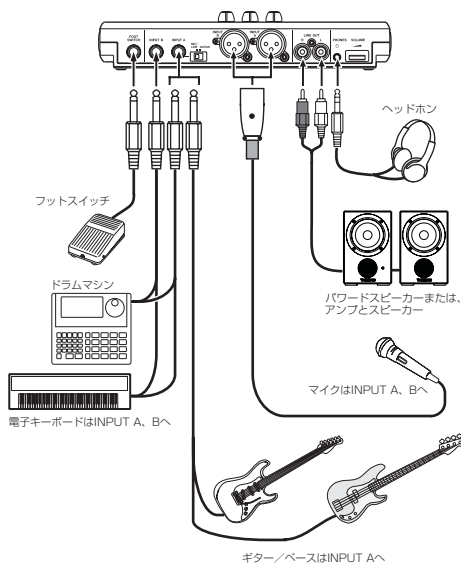
本機の電源を入れたときは、常に“MULTI TRACK” モードで立ち上がります。

“MULTI TRACK” モード以外のモードのときは、画面を使った操作を受け付けない場合が多くあります。

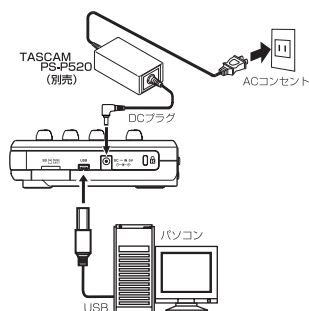
本取扱説明書の説明では、特に断りのない限り、レコーダーモードが“MULTI TRACK” モードであることを前提としています。

## 外部機器との接続

### リアパネル



### 右サイドパネル



### メモ

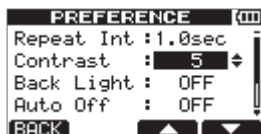
本機をパソコンとUSB接続しているときは、レコーダーとしての機能を使うことができません。

## コントラストを調整する

ディスプレイのコントラストを調整することができます。

以下の手順でコントラストの調整を行います。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“**MENU**” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って “**PREFERENCE**” メニューを反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。“**PREFERENCE**” 画面が表示されます。
3. **F3** “[▲]” キーと **F4** “[▼]” キーを使って “**Contrast**” 項目の設定値を反転表示し、**DATA**ホイールを使ってディスプレイのコントラストを調整します。



設定値は “1” ～ “10” です。

初期値は “5” です。

数値が小さいほど表示が薄く、大きいほど濃くなります。

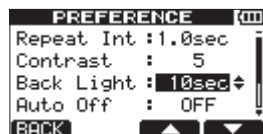
ディスプレイは、見る角度によって見えかたが変わります。コントラストを調整することで見えやすくなる場合がありますので、本機を使用するポジションで実際の表示を見ながら調整してください。

4. 設定が終了したら、**HOME**キーを押してホーム画面に戻します。

## バックライトを設定する

電池使用時に、電池の消耗を抑えるため、バックライトの点灯時間を設定することができます。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“**MENU**” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って “**PREFERENCE**” メニューを反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。“**PREFERENCE**” 画面が表示されます。
3. **F3** “[▲]” キーと **F4** “[▼]” キーを使って “**Back Light**” 項目の設定値を反転表示し、**DATA**ホイールを使ってバックライトの点灯時間を設定します。



設定値は “OFF”、“5sec”、“10sec”、“15sec”、“30sec” です。“OFF” 設定時は、バックライトが点灯し続けます。

初期値は “OFF” です。

4. 設定が終了したら、**HOME**キーを押してホーム画面に戻します。

## 第5章 ソングの管理

本機は、ソングと呼ばれる単位でデータを管理します。通常、曲ごとにソングを割り当てます。作業を行うときは、まず初めに希望のソングをロードします（既存のソングをロードするか、あるいは新たなソングを作成）。

ソングには、録音したマルチトラック（TRACK 1～8）とステレオマスタートラックが保存されます。

本章では、SDカード内のパーティションの説明に始まり、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。

### パーティションとソング

ソングのデータの記録先はSDカードです。本機でフォーマットされたSDカードは、パーティションに仕切られています。

パーティションには、ソングのデータを記録するための「MTRパーティション」と、パソコンからの読み込みが可能な「FATパーティション」があります。また、容量の大きいSDカードの場合は、複数のMTRパーティションが作成される場合があります。

本機で録音、再生、編集などレコーダー操作を行うには、作業対象のMTRパーティション（アクティブパーティションと呼びます）を選択し、その中のソングをロードするか、あるいは新たにソングを作成します。

### アクティブパーティションを変更する

現在のアクティブパーティション以外のMTRパーティション上のソングのデータを使って作業を行ったり新規のソングのデータを別のMTRパーティション上に作成するには、アクティブパーティションを変更する必要があります。

次の操作は、複数のMTRパーティションが存在するSDカードがセットされていることを前提としています。

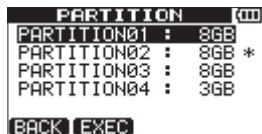
1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って“CARD”メニューを反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。“CARD”メニュー画面が表示されます。



3. **DATA**ホイールを使って“PARTITION”項目を反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。“PARTITION”画面に進み、MTRパーティションがリスト表示されます。アクティブパーティションの末尾には“\*”が表示されています。また、表示されている容量はパーティションのサイズです（空き容量ではありません）。



[ パーティションがひとつだけの場合 ]



[ パーティションが複数の場合 ]

4. **DATA**ホイールを使って希望のパーティションを選択し、**F2** “[EXEC]” キーを押します。確認メッセージ（“Are you sure?”）がポップアップ表示されます。



## 5. F3 “{YES)” キーを押します。

現在作業中のソングが保存された後、アクティブパーティションが変更されます。

そして変更後のパーティションで前回最後に作業を行ったソングがロードされます。

## 名前の編集

以下の場合に名前の編集が可能な画面が表示されます。

- ソングの保存、作成、名前編集 (“SAVE”、“CREATE”、“NAME EDIT”)
- WAVファイルをエクスポートするとき (“EXPORT TRACK”、“EXPORT MASTER”)
- ソングをバックアップするとき (“SONG BACKUP”)



[ SONG CREATE 名前編集画面 ]

以下の要領で名前の編集を行います。

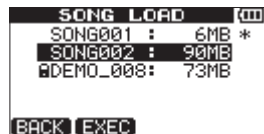
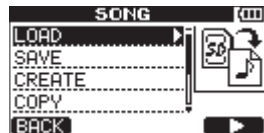
- ◀◀キーと▶▶キーを使ってカーソル（下線）位置を移動します。カーソル位置が編集位置になります。
- DATAホイールを使ってカーソル（下線）位置の文字を変更します。一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を入力することができます。
- カーソル位置に空白を挿入するには、F3 “{INS)” キーを使います。ファイルの名前を編集集中には、カーソル位置に “A” が挿入されます。

- カーソル位置の文字を削除するには、F4 “{DEL)” キーを押します。
- 入力／編集が終了したらF2 “{EXEC)” キーを押して、新しい名前を保存します。

## ソングをロードする

以下の手順で、アクティブパーティション上の希望のソングをロードします。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “SONG” メニューを反転表示し、F4 “{▶)” キーを押します。“SONG” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “LOAD” 項目を反転表示し、F4 “{▶)” キーを押します。“SONG LOAD” 画面に進み、パーティション内のソングがリスト表示されます。現在ロード中のソングの末尾には “\*” が付いています。

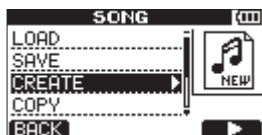


4. DATAホイールを使って希望のソングを反転表示し、F2 “{EXEC)” キーを押します。現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。
5. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻ります。

### 新しいソングを作成する

以下の手順で、アクティブパーティション上に新規のソングを作成します。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って“**SONG**”メニューを反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。  
“**SONG**”メニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って“**CREATE**”項目を反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。  
“**SONG CREATE**”画面が表示されます。



作成されるソングには、初期設定のソングの名前“**SONG\*\*\***”（\*\*\*は番号。上の画面例では“**SONG005**”）が付けられています。

4. 必要に応じて「名前の編集」（39ページ）で述べた方法に従って、ソングの名前（タイトル）を付けます。

#### ヒント

後からでも、“**SONG**”メニュー画面内の“**NAME EDIT**”項目を使ってソングの名前を編集することができます。また、ソングを保存するときにもソング名を編集することができます。

5. **F2** “[EXEC]” キーを押します。

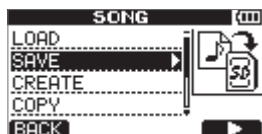
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

6. **HOME**キーを押して、ホーム画面に戻します。

### ソングを保存する

本機をシャットダウンするときや別のソングを呼び出すときに、ソングが自動的に保存されますが、以下の手順でいつでもソングを保存することができます。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って“**SONG**”メニューを反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。  
“**SONG**”メニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って“**SAVE**”項目を反転表示し、**F4** “[▶]” キーを押します。  
“**SONG SAVE**”画面が表示されます。



4. ソングの名前（タイトル）を変更したいときは、変更してから（→ 39ページ「名前の編集」）**F2** “[EXEC]” キーを押します。そのまま保存するときは、単に**F2** “[EXEC]” キーを押します。
5. **HOME**キーを押して、ホーム画面に戻します。



## ソング情報を見る

現在ロード中のソングの名前、所属パーティション、録音残時間をチェックすることができます。

1. MENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “INFORMATION” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。



“INFORMATION” 画面の “SONG (1/3)” ページに進み、カレントソングの名前と録音残時間が表示されます。



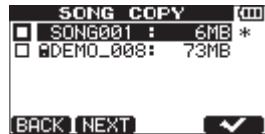
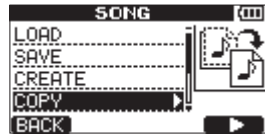
### メモ

“INFORMATION” 画面には “SONG (1/3)”、“CARD (2/3)”、“F/W (3/3)” の3ページがあり、F3 “[PREV]” キーとF4 “[NEXT]” キーを使ってページを切り換えます。(→ 71 ページ「情報を見る」)

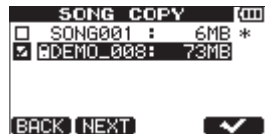
## ソングをコピーする

現在のアクティブパーティション内のソングを、同じパーティションまたは別のMTRパーティションにコピーすることができます。複数のソングをまとめて一括コピーすることもできます。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “SONG” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“SONG” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “COPY” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“SONG COPY” 画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



4. DATAホイールを使ってコピーしたいソングを反転表示し、F4 “[✓]” キーを押します。  
ソングがコピー元として選択され、チェックボックスがチェックされます。



### メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態でF4 “[✓]” キーを押します。

5. 複数のソングをコピーする場合は、手順4.を繰り返します。

## 第5章 ソングの管理

6. コピーするソングをすべて選択したら、F2 “(NEXT)” キーを押します。

コピー先のパーティションを選択する画面が表示されます。



7. DATAホイールを使ってコピー先パーティションを選択し、F4 “(EXEC)” キーを押します。コピーが実行され、終了すると“SONG”メニュー画面に戻ります。

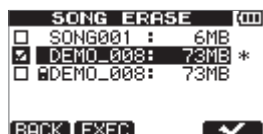
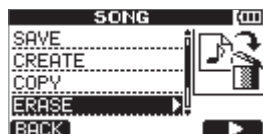
8. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

- ソングコピーをキャンセルしたいときは、F4 “(EXEC)” キーを押す代わりにF1 “(BACK)” キーを押します。

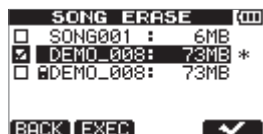
### ソングを消去する

ソングを消去することができます。複数のソングをまとめて一括消去することもできます。メディアの空き容量が少なくなった場合は、不要なソングを消去することをお勧めします。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“SONG”メニューを反転表示し、F4 “(▶)” キーを押します。“SONG”メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って“ERASE”項目を反転表示し、F4 “(▶)” キーを押します。“SONG ERASE”画面に進み、アクティブパーティション内のソングがリスト表示されます。



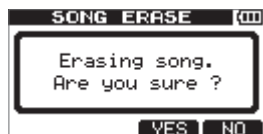
4. DATAホイールを使って消去したいソングを反転表示し、F4 “(✓)” キーを押します。ソングのチェックボックスがチェックされます。



#### メモ

チェックボックスのチェックを外したいときは、反転表示した状態でF4 “(✓)” キーを押します。

5. 複数のソングを消去する場合は、手順4.を繰り返します。
6. 消去するソングをすべて選択したら、F2 “(EXEC)” キーを押します。確認メッセージがポップアップ表示されます。



7. F3 “(YES)” キーを押します。消去が実行され、終了すると“SONG”メニュー画面に戻ります。
8. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

- ソングの消去をキャンセルする場合は、F3 “[YES]” キーを押す代わりにF4 “[NO]” キーを押します。
- MTRパーティションには、必ずソングが1つ以上存在します。したがって、すべてのソングを消去すると、新規のソングが1つ作成されます。

### ソングをプロテクトする

ソングをプロテクトすることにより、そのソングに対する編集、録音、消去といった操作ができなくなります。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “SONG” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“SONG” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “PROTECT” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
プロテクトのオン／オフを設定する “SONG PROTECT” 画面が表示されます。



4. DATAホイールを使って “PROTECT” を “O N” に設定し、F2 “[EXEC]” キーを押します。  
プロテクトがオンに設定されて、“SONG” メニュー画面に戻ります。
5. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

- コピー、削除などを行うときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソングの脇に錠アイコンが付いています。
- プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとすると、ディスプレイに “Song Protected” とポップアップ表示され、操作を受け付けません。
- プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順4で “PROTECT” を “OFF” に設定します。

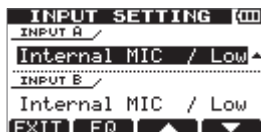
# 第6章 基本レコーディング

## 入力ソースを選択する

本機には、2つの入力（INPUT AおよびINPUT B）があり、それぞれ個別に入力ソースを選択することができます。

入力ソースには、内蔵マイク（フロントパネルのMIC A、MIC B）または外部入力信号（リアパネルのINPUT A、INPUT B端子からの入力）を選択できます。INPUT Aの標準ジャック入力はマイク、ライン信号のほかにギターを入力することができ、入力信号の種類によってリアパネルのMIC/LINE - GUITARスイッチで設定を行います。

1. INPUT SETTINGキーを押して、“INPUT SETTING”画面を表示します。



“INPUT A”と“INPUT B”項目で、INPUT AとINPUT Bの入力ソースを設定します。

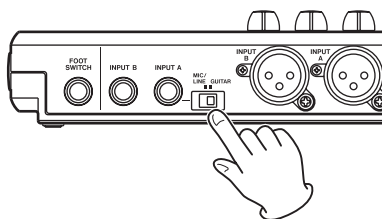
2. F3 “[▲]”キーとF4 “[▼]”キーを使って、“INPUT A”または“INPUT B”の選択肢を反転表示し、DATAホイールを使って入力ソースを選択します。

### “INPUT A/B”の選択肢

選択肢	内容
Internal MIC / Low (初期値)	内蔵マイクA/B (感度ロー)
Internal MIC / High	内蔵マイクA/B (感度ハイ)
Ext. Input, LINE / Low	外部入力A/B (感度ロー)
Ext. Input / Mid	外部入力A/B (感度ミドル)
Ext. Input / High	外部入力A/B (感度ハイ)

3. 設定が終了したらHOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

4. 上記手順2で“INPUT A”の入力ソースをINPUT A端子経由のソースとして選択した場合は、リアパネルのMIC/LINE - GUITAR切換スイッチを適切に設定します。  
エレキギターやエレキベースを直接入力した場合は、GUITARに設定します。  
マイクやライン信号を入力した場合は、MIC/LINEに設定します。



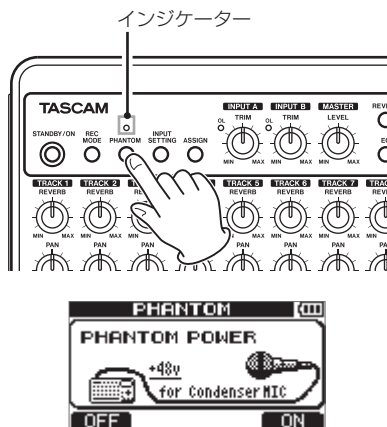
### ヒント

プリアンプ内蔵のエレキギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にエフェクターなどを接続する場合は、MIC/LINE - GUITAR切換スイッチをMIC/LINEに設定します。

## ファントム電源について

ファントム電源を必要とするコンデンサマイクを接続する場合は、以下の手順でファントム電源をオンにします。ファントム電源をオンにすると、INPUT AおよびINPUT BのXLR端子両方にファントム電源が供給されます。

1. レコーダーが停止中にPHANTOMキーを押して、“PHANTOM”画面が表示されます。



2. F4 “[ON)” キーを押すと、ファントム電源がオンになり、PHANTOMキーの上のインジケータが点灯し、ホーム画面に戻ります。

ファントム電源をオフにするには、上記2.の操作で、F1 “[OFF)” キーを押します。

## 注意

- ファントム電源のオンまたはオフは、**LEVEL**つまみを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。機器が故障する恐れがあります。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。

- ファントム電源をオンにすると、電池の消耗が早くなります。

## 入力信号のモニターについて

入力信号をモニターするには、その信号を録音するTRACKのRECキーを押し、RECインジケータを点灯／点滅させます。

## メモ

レコーダー再生中は、再生信号と入力ソースの音のミックス信号が、**PHONES**端子または**LINE OUT**端子に接続したヘッドホンや、モニターシステムから聞こえてきます。

## OLインジケータおよびレベルメーターについて

INPUT A/BのOLインジケータとディスプレイのレベルメーターによって、本機のオーディオのレベルをチェックすることができます。

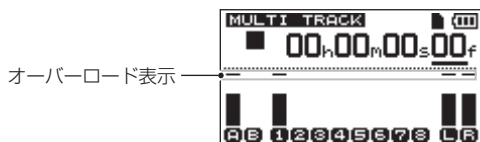
レベルメーターは、信号のレベルを監視するためのものですが、本機に信号が入力されているかどうかをチェックするときにも使うことができます。たとえば、モニターに何も聞こえない場合であっても、ディスプレイの“A”と“B”のレベルメーターが振れていれば、本機には信号が入力されていることになります。

次のページの図のように、レベルメーターの一番上に“—”が点灯する場合は、レベルがオーバードロードに達しています（“—”表示はしばらくホールドされた後、自動的に消えます）。この状態では音が歪んでいる可能性がありますので、“—”が点灯しないよう、レベルを下げてください。

OLインジケータが点灯する場合は、入力ソース信号が大きすぎるか、あるいは**TRIM**つまみを上げてすぎています。

## 第6章 基本レコーディング

TRIMつまみをMINに設定してもOLインジケータが点灯する場合は、入力ソース信号が大きすぎますので、“INPUT SETTING” の設定を見直すか、入力ソースの音量を下げてください。



### 入力レベルメーター（A、B）

ディスプレイの“A”と“B”のレベルメーターは、本機の入力、INPUT AとINPUT Bの入力レベルを表示します。

INPUT AまたはINPUT BのTRIMつまみ、“INPUT SETTING” の設定、または入力ソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

### TRACKレベルメーター（1 ～ 8）

これらのレベルメーターは、トラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。

TRACKレベルメーターは、動作状態に応じて下記の信号のレベルを表示します。

- RECインジケータ  
消灯で再生時：トラック再生信号
- RECインジケータ  
点滅（録音待機）で再生時：トラック再生信号
- RECインジケータ  
点滅（録音待機）で停止時：トラック入力信号
- RECインジケータ  
点灯時（録音時）：トラック入力信号

### メモ

再生信号表示時は、トラックに録音されている信号のレベルが表示されますので、レベルメーターのレベルを変えることはできません。

入力信号表示時は、INPUT AとINPUT BのTRIMつまみによってレベルメーター表示レベルが変わります。

### ステレオレベルメーター（L、R）

本機のステレオバス出力のレベルを表示します。出力レベルは、MASTER LEVELつまみを使って調節します。

## 入力をアサインする

本機にて「入力をアサインする」ということは、それぞれのTRACKの録音ソースをINPUT AまたはINPUT Bのどちらにするのかを設定することです。本機では、同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力を2つのトラックに同時にアサインすることもできます（この場合は、もう一方の入力は使用できません）。2つの入力を同じトラックにアサインすることはできません。

1. レコーダーが停止中にASSIGNキーを押して、“INPUT ASSIGN” 画面を表示します。



初期設定では、“TRACK 1”、“3”、“5”、“7”の録音ソースとして“A”（INPUT A）がアサインされ、“TRACK 2”、“4”、“6”、“8”の録音ソースとして“B”（INPUT B）にアサインされています。

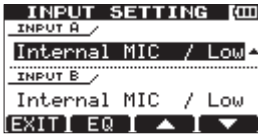
2. RECキーを使って、各TRACKの入力ソースを“A”（INPUT A）または“B”（INPUT B）に設定します。
3. 設定が終了したらHOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

## INPUT EQを使う

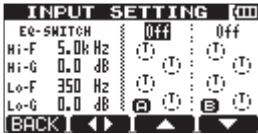
INPUT AおよびINPUT Bには、2バンドイコライザー（EQ）が搭載されています。

INPUT EQの設定は、“INPUT SETTING” 画面で行います。

1. INPUT SETTINGキーを押して、“INPUT SETTING” 画面を表示します。



2. F2 “[EQ]” キーを押して、イコライザー設定画面を表示します。



イコライザーのパラメーターは、以下の通りです。

パラメーター	設定値
EQ-SWITCH (INPUT EQのスイッチ)	ON/OFF (初期値：OFF)
Hi-F（高域の周波数）	1.7kHz～18kHz (初期値：5kHz)
Hi-G（高域のゲイン）	±12dB (初期値：0.0dB)
Lo-F（低域の周波数）	32Hz～1.6kHz (初期値：350Hz)
Lo-G（低域のゲイン）	±12dB (初期値：0.0dB)

F2 “[◀▶]” キーで、INPUT A/Bの切り換え、  
F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーでパラメーターの選択、DATAホイールでパラメーターの設定を行います。

F1 “[BACK]” キーを押すと、入力選択画面に戻ります。

3. 設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

### メモ

INPUT EQがオンになっている入力は、ホーム画面上の入力表示が以下のようになります。



INPUT EQ オン表示

## レコーディング（最初の録音）

以下に述べる録音操作は、すでに録音ソースを接続し、入力をトラックの録音ソースとしてアサインし、モニター（ヘッドホン）をセットしていることを前提にしています。

1. 録音するTRACKのRECキーを押します。

RECインジケーターが赤く点滅します（この状態を「録音待機状態」と言います）。

同時に録音できるトラック数は、最大2トラックです。

2つのTRACKのRECインジケーターが点滅しているときに別のRECキーを押すと、最初に押したTRACKの録音待機状態が解除され、RECインジケーターが消灯します。たとえば、TRACK 1、TRACK 2、TRACK 3の順にRECキーを押した場合は、最初に押したTRACK 1の録音待機状態が解除されて、後から押したTRACK 2、TRACK 3が録音待機状態になります。

2. 録音のレベルを設定します。

入力（INPUT A、INPUT B）のTRIMつまみを使って入力レベルを調節します。このとき、ディスプレイの“A”と“B”レベルメーターとTRIMつまみ左上のOLインジケーターを監視しながら、適正にレベルを設定します。

## 第6章 基本レコーディング

同時に、ヘッドホンやモニターシステムから聞こえてくる音が歪んでいないことを確認します。

### メモ

入力信号がアサインされている**TRACK**レベルメーターは、INPUT EQ後の入力レベルを表示します。INPUT EQを使用している場合は、入力信号のアサインされたトラックのレベルメーターも同時に監視する必要があります。

入力が大きすぎると、**OL**インジケーターが点灯します。

**TRIM**つまみを下げても**OL**インジケーターが点灯する場合は、入力ソース信号のレベルを下げます。

3. 録音【●】キーを押しながら**再生**【▶】キーを押します。

録音が始まり録音【●】キーのインジケーターが赤く点灯します。

**TRACK**の**REC**インジケーターが点滅から点灯に変わります。

4. 録音が終了したら**停止**【■】キーを押します。

5. 録音を開始した位置に戻すには、**停止**【■】キーを押しながら**▶▶**キーを押します。（LRP = Last Recording Point 機能）  
ソングの頭（“00:00:00:00”）に戻すには、**停止**【■】キーを押しながら**◀◀**キーを押します。（RTZ = Return To Zero 機能）

6. **再生**【▶】キーを押して、録音した**TRACK**を再生します。

**TRACK**の**LEVEL**つまみと**MASTER LEVEL**つまみを使って、再生レベルを調節します。最終的なモニター音量は、**VOLUME**ダイヤルまたはモニターシステムのボリュームを使って調節します。

**PAN**つまみを使って、左右スピーカー間における各**TRACK**信号の定位を設定します。

### メモ

各**TRACK**の**PAN**つまみや**LEVEL**つまみは、録音済み**TRACK**の再生出力信号、もしくは入力信号のモニター音をコントロールします。録音される信号はコントロールしません。

- 録音に満足でなかったら、上記の手順を初めからやり直します。
- ◀◀ / ▶▶ キーを押すと、早戻し／早送りを行います（テープレコーダーのように）。これらのキーを押したままにすると、早戻し／早送りのスピードが速くなります。**停止**【■】キーを押すと停止します。

## マルチトラック録音

すでに録音されているトラックの再生信号に合わせて別のトラックに新しい音を録音します。

### RECインジケーターを設定する

- 録音済み**TRACK**の**REC**インジケーターを消灯します。
- 新たに録音する**TRACK**の**REC**キーを押して、録音待機状態にします（**REC**インジケーター点滅）。

### TRACKのパン／レベルを設定する

録音済み**TRACK**の**PAN**つまみと**LEVEL**つまみを使って、録音時の再生信号モニターのレベルと定位を調節します。

### 入力の選択とアサイン

本章ですでに述べた方法で、入力ソースを録音**TRACK**にアサインします。



## 入力レベルを設定する

設定が終了したら、再生【▶】キーを押して再生を行います。

本番の録音と同じように、録音済みトラックの再生音と録音トラックの入力ソースをモニターすることができますので、モニターのバランスや音量をチェックします。

## 録音をする

録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押します。

再生音を聞きながら別のトラックに新たな録音を行います。

## ミックスダウン

録音した個々のトラックの音量、定位などを調整し、それらをステレオにミックスしてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

## レベルとバランス

TRACK 1～8のLEVELつまみを使ってトラックの相対バランスを調節します。そしてMASTER LEVELつまみを使って全体のレベルを調節します。ディスプレイの“L”と“R”レベルメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。大きすぎると音が歪みます。

### メモ

ディスプレイのトラックレベルメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、LEVELつまみを動かしてもレベルメーターの振れは変わりません。

### ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソロの間に徐々に音量を上げる、といったことも可能です。

## 定位（パン）

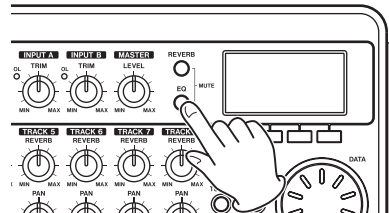
各TRACKのPANつまみを使って、各トラック信号のステレオ定位を設定します。

## TRACK EQ（イコライザー）

各TRACKには、2バンドイコライザー（EQ）が搭載されています。

TRACK EQの設定は、“EQ SETTING”画面で行います。

1. EQキーを押して、“EQ SETTING”画面を表示します。



2. TRACK EQ（イコライザー）の設定をします。イコライザーのパラメーターは、以下の通りです。

パラメーター	設定値
EQ-SWITCH (TRACK EQのスイッチ)	ON/OFF (初期値：OFF)
Hi-F（高域の周波数）	1.7kHz～18kHz (初期値：5kHz)
Hi-G（高域のゲイン）	±12dB (初期値：0.0dB)
Lo-F（低域の周波数）	32Hz～1.6kHz (初期値：350Hz)
Lo-G（低域のゲイン）	±12dB (初期値：0.0dB)

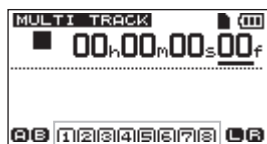
## 第6章 基本レコーディング

F1 “[◀]” キーとF2 “[▶]” キーで、チャンネルの切り換え、F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーでパラメーターの選択、DATAホイールでパラメーターの設定を行います。

3. TRACK EQの設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

### メモ

TRACK EQがオンになっているTRACKは、ホーム画面上のトラック表示が以下のようになります。



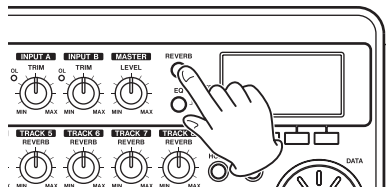
TRACK EQ オン表示

## リバーブ

本機には、6種類のリバーブエフェクトを搭載しています。

各チャンネルのリバーブエフェクトへの送りレベルは、各チャンネルのREVERBつまみで行います。TRACK EQ（イコライザー）をかけた信号を送ります。

1. REVERBキーを押して、“REVERB SETTING”画面を表示します。



2. リバーブの設定をします。リバーブエフェクトには、以下のパラメーターがあります。

パラメーター	設定値
TYPE	Hall 1/Hall 2/Room/Studio/Plate 1/Plate 2 (初期値: Hall 1)
TIME	0.2 (Plateのみ0.8) ~ 3.2Sec (初期値: 1.8Sec)
LEVEL	0 ~ 100 (初期値: 80)

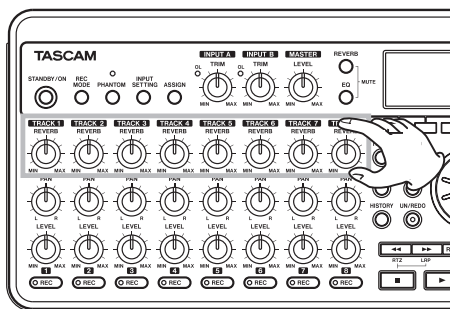
“TYPE” で、リバーブの種類を選択します。

“TIME” で、リバーブの時間（深さ）を調節します。

“LEVEL” で、リバーブの量（音量）を調節します。

リバーブエフェクトの戻りは、ステレオ信号にミックスされます。

3. リバーブの設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。
4. ミキサーチャンネルのREVERBつまみを使って、各TRACKのリバーブエフェクトへ送るレベルを調整します。



## メモ

各リバーブTYPEの初期値は、以下の通りです。

TYPE	初期値	
	TIME	LEVEL
Hall 1	1.8	80
Hall 2	2.2	80
Room	1.4	10
Studio	0.6	20
Plate 1	1.4	60
Plate 2	1.8	60

設定値が各リバーブTYPEの初期値と同じ値になっている場合は、設定値の下に“INI”と表示します。

- ミュート設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

## メモ

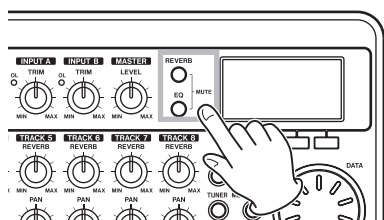
ミュートがオンになっているトラックは、ホーム画面上のトラック表示が以下のようになります。



トラックミュート オン表示

## トラックのミュート

- EQキーとREVERBキーを同時に押して、“TRACK MUTE”画面を表示します。



- 各TRACKのRECキーを押すことにより、ミュートのオン/オフができます。ミュートがオンになると、トラック表示が反転します。



## マスタリング

納得のいくミックスができれば、ミックスダウンした内容を録音し、本機内部にステレオマスタートラックを作成します。この工程がマスタリングです。本機でレコーディングしたステレオマスタートラックは、ソングの一部として保存されます。本機では、作成したステレオマスタートラックを外部のステレオレコーダーに録音できるほか、本機の内部でWAVファイル形式に変換してパソコンにエクスポートすることができます。（→ 83ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」）

## メモ

ソング内に作成できるステレオマスタートラックは、ひとつだけです。

## 終了点を設定する

マスタリングを実行する前に、マスタリングの終了点を設定します。ソングの‘00:00:00:00’（ゼロポイント）からOUTポイントまでの範囲が、ステレオマスタートラックとしてレコーディングされます。

## 第6章 基本レコーディング

通常は、曲の終わりのポイントをOUTポイントに設定します。したがって、OUTポイントの時間がその曲の長さになります。

以下の手順でOUTポイント（＝終了点）を設定します。

1. IN/OUTキーを押して、“I/O SETTING”画面を表示します。



2. ソングを再生し、ステレオマスタートラックの終了点にしたい位置でF4 “[OUT)” キーを押します。  
“SET OUT !” がポップアップ表示されます。  
この位置がOUTポイントとして設定されます。



### ヒント

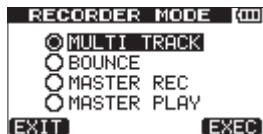
停止中も、F4 “[OUT)” キーを押してOUTポイントを設定することができます。

3. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻ります。  
OUTポイントを修正する方法など、詳しい情報は「IN / OUTポイントを設定する」(59ページ)をご覧ください。

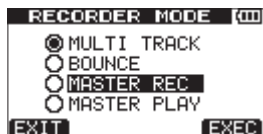
### マスタリングを実行する

OUTポイントを設定後、マスタリングを行います。

1. REC MODEキーを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。



2. DATAホイールを使って“MASTER REC”項目を反転表示します。



3. F4 “[EXEC)” キーを押します。

本機がマスターレコーディングモードになり、ホーム画面に戻ります。

この状態で再生や録音を行うと、ヘッドホンやモニターシステムからは、トラックのミックス信号（＝録音される信号）が聞こえます。



### メモ

- OUTポイントが設定されていないと“MASTER REC”モードに入ることができません。
- IN/OUT区間が短すぎると、“MASTER REC”モードにしようとするときに“trk too short”というメッセージがポップアップ表示して、“MASTER REC”モードに入ることができません。
- “MASTER REC”モードでは、OUTポイントの変更はできません。
- 本機がマスターレコーディングモードのとき、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようすると、メッセージ（“In Master Mode”）がポップアップ表示されます。

4. 録音【●】キーを押しながら再生【▶】キーを押します。

マスターレコーディングが始まり、録音【●】キーのインジケーターが点灯します。

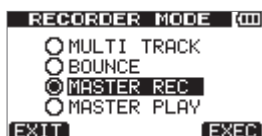
レコーダー位置がどこであっても、“00:00:00:00”ポイント（ソングの先頭）からレコーディングが始まります。

必要に応じてLEVELつまみ、PANつまみを使ってステレオにミックスダウンします。ここでの操作は、ステレオマスタートラックに反映されます。

レコーダー位置がOUTポイントに到達すると、レコーディングが自動的に終了します。

終了後、作成されたマスタートラックを聞いてみるには、以下の操作を行います。

5. REC MODEキーを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。



6. DATAホイールを使って“MASTER PLAY”項目を反転表示します。

7. F4 “[EXEC]”キーを押します。

本機がマスター再生モードになり、ホーム画面に戻ります。

8. この状態で再生【▶】キーを押すと、いま作成したステレオマスタートラックが再生されます。ステレオマスタートラックの再生信号は、PHONES端子またはLINE OUT端子から出力されますので、外部のステレオレコーダーにダビングすることができます。

9. 納得のいくステレオマスタートラックが作成できたら、REC MODEキーを押して“RECORDER MODE”画面を表示し、DATAホイールを使って“MULTI TRACK”項目を

反転表示し、F4 “[EXEC]”キーを押します。本機がマルチトラックモード（通常モード）に戻り、ディスプレイがホーム画面に戻ります。でき上がったステレオマスタートラックが気に入らない場合は、上記の手順で再度マスターレコーディングをやり直します。新しいステレオマスタートラックが、以前のステレオマスタートラックを上書きします。

### メモ

保存されているソングに録音されているステレオマスタートラックを聞くには、そのソングをロードしてから、レコーダーモードを“MASTER PLAY”に設定し、再生【▶】キーを押して再生します。

### ヒント

ステレオマスタートラックをTRACK 1～8のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。（→ 67ページ「クローントラック（トラック複製）」）

## 実行した操作を取り消す（アンドゥ）

本機の操作を失敗したときや、レコーディングがうまくいかなかったときなど、操作を取り消すことができます。編集操作、録音操作など、多くの通常の操作は取り消し（アンドゥ）が可能です。本機のアンドゥには、シンプルなキー操作で行うことができるシングルアンドゥと、操作履歴上の任意の位置に戻ることができるマルチアンドゥの2種類があります。

### メモ

アンドゥまたはマルチアンドゥが実行されて、取り消された操作があるとき、UN/REDOインジケーターが点灯します。

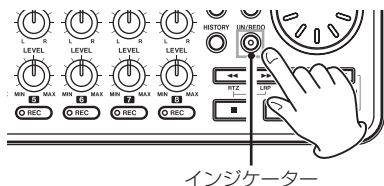
## 第6章 基本レコーディング

### 最後に行った操作を取り消す (シングルアンドゥ)

UN/REDOキーを押します。

最後の操作を行う前の状態に戻ります。

この状態でUN/REDOインジケータが点灯し、リドゥ（以下参照）が可能です。



インジケータ

### アンドゥ操作を取り消すには（リドゥ）

UN/REDOインジケータが点灯中に、このキーを押します。

最後の操作が再び有効になって本機が最新の状態に戻り、UN/REDOインジケータが消灯します。

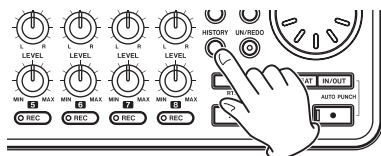
#### メモ

以下に述べるマルチアンドゥを実行して本機が以前の状態に戻っているときにシングルアンドゥを実行すると、さらに一つ前の状態に戻ります。

再度UN/REDOキーを押してリドゥを実行すると、シングルアンドゥ操作が取り消され、再びマルチアンドゥ後の状態に戻ります。この場合は、マルチアンドゥにより取り消された操作がまだあるため、UN/REDOインジケータは点灯したままです。

### ある操作以降の操作を取り消す (マルチアンドゥ)

1. HISTORYキーを押して、“HISTORY”画面を表示します。



HISTORY	
RECORDING	4 *
RECORDING	3
RECORDING	2
RECORDING	1
-START UP-	0
EXIT [EXEC]	CLEAR

“HISTORY”画面には、操作の履歴がリスト表示されています。リスト上の各操作項目を「イベント」と呼びます。

イベント番号“0”（“-START UP-”）から操作順にイベントがリスト表示され、いちばん上の行が最新のイベントです。最新のイベントの脇には“\*”が付いています。

このリスト内で指定するイベント以降のイベントを取り消すことができます。このように複数のイベントを取り消してそれ以前の状態に戻す操作を「マルチアンドゥ」と呼びます。

2. DATAホイールを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します（選択したイベント以降のイベントが取り消されることになります）。

3. F2 “[EXEC]”キーを押します。

マルチアンドゥが実行され、選択したイベント直後の状態に戻ります。この状態でUN/REDOインジケータが点灯します。

上記によって取り消されたイベント情報が消えるわけではありません。

本機の状態がさかのぼっているだけです。“HISTORY”画面上では、アンドゥによってさかのぼったイベントの脇に“\*”が表示されます。

#### メモ

“HISTORY”画面表示中はUN/REDOキーが無効になり、シングルアンドゥとリドゥを実行できません。

## 注意

- ソングセーブ時にソングファイルとして記録される操作履歴は最大500項目です。  
操作履歴が500項目を超えている場合は、ソングセーブ時に古い操作履歴が削除されます。このときに削除された操作履歴を復活することはできません。
- 電源オフすると操作履歴は、すべて消去されます。再度電源オンしたときには、電源オフした時の状態となり、それ以前の操作履歴に戻ることとはできません。

## 操作履歴の消去について

電源をオフにすると、現在ロードされているソングの操作履歴がすべて消去（クリア）されます。再度電源をオンにしたときは、前回の電源オフ時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

## メモ

電源オフ時にロードされていないソングの操作履歴は消去されません。

また、電源オンのままで現在ロード中のソングの操作履歴を消去（クリア）するには、以下の手順を行います。

1. HISTORYキーを押して、“HISTORY”画面を表示します。

HISTORY		(M)
RECORDING	4 *	
RECORDING	3	
RECORDING	2	
RECORDING	1	
-START UP-	0	
EXIT   EXEC		CLEAR

2. F4 “[CLEAR]” キーを押します。

確認メッセージがポップアップ表示されます。



3. F3 “[YES]” キーを押します。

再度、確認メッセージがポップアップ表示されます。



4. F3 “[YES]” キーを押します。

操作履歴がクリアされ、使用していないデータが消去されます。

操作が完了するとホーム画面に戻ります。

- 操作履歴の削除を中止したいときは、F4 “[NO]” キーを押します。

## ヒント

- 操作履歴の消去を行った直後に “HISTORY” 画面を見ると、イベント（操作）番号 “0” (“-START UP-”) のみが表示され、すべての操作履歴がクリアされたことを確認できます。
- 電源オフしても操作履歴を残しておきたいときは、電源オフする前にソングプロテクトをオンにしておいてください。（→ 43ページ「ソングをプロテクトする」）

## 注意

操作履歴の消去は取り消し（アンドゥ）できません。よく確認してから実行してください。

# 第7章 レコーダー機能

## パンチイン／アウト

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使うテクニックです。

レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生（または停止）に切り換えます（パンチアウト）。

1. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。  
差し替えた音声が入元のトラック音声とうまくつながるようなポイントを選びます。
2. 差し替える**TRACK**の**REC**キーを押して、録音待機状態にします（**REC**インジケータ点滅）。
3. 差し替え部分の手前から再生を始めます。
4. 差し替え部分に来たら**録音【●】**キーを押し、演奏を行います。  
録音に切り換わります（パンチイン）。
5. 差し替え部分の終わりに来たら**再生【▶】**キーを押します。  
再生に切り換わります（パンチアウト）。

### ヒント

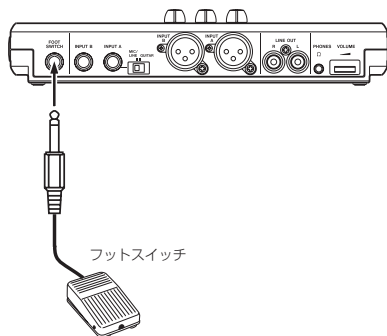
差し替え部分の終わりに来たとき、**停止【■】**キーを押して停止してパンチアウトすることもできます。

## フットスイッチを使った

### パンチイン／アウト

リアパネルの**FOOT SWITCH**端子に接続したフットスイッチを使って、パンチイン／アウトを行うこともできます。

上記手順の**4**で**録音【●】**キーの代わりにフットスイッチを踏み、手順**5**の**再生【▶】**キーの代わりに再度フットスイッチを踏みます。



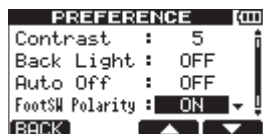
フットスイッチ

## フットスイッチの極性を設定する

フットスイッチの極性の設定は、「**PREFERENCE**」画面で行います。

フットスイッチを接続し、フットスイッチを踏んでいない状態で「**FootSW Polarity**」を「**OFF**」に設定することにより、接続したフットスイッチの極性にあった動作をします。

1. リアパネルの**FOOT SWITCH**端子に、フットスイッチを接続します。
2. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、「**MENU**」選択画面を表示します。
3. **DATA**ホイールを使って「**PREFERENCE**」メニューを反転表示し、**F4**「**[▶]**」キーを押して「**PREFERENCE**」画面を表示します。
4. **F3**「**[▲]**」キーと**F4**「**[▼]**」キーを使って、「**FootSW Polarity**」項目を反転表示します。
5. フットスイッチを踏んでいない状態で、**DATA**ホイールを使って「**OFF**」に設定をします。



6. 設定が終了したら、**HOME**キーを押して、ホーム画面に戻ります。



## トラックバウンス

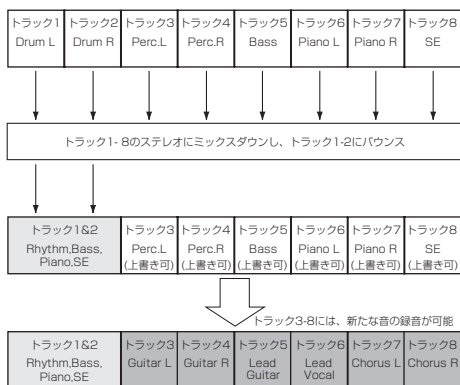
本機のトラックバウンス（ピンポン）機能を使って、録音済みのトラック1～8をミックスしてトラックに戻すことができます。

テープを使ったマルチトラックレコーダーでは、空きトラックにバウンスすることしかできません（つまり再生トラックには、録音することができません）。たとえば、トラック1～7をトラック8にバウンスできますが、トラック1～8をトラック1にバウンスすることはできません。

本機ではこうした制約がなく、トラック1～8をミックスダウンしてトラック1/2に録音（ステレオバウンス）、あるいはトラック1～8をモノラルミックスしてトラック1に録音（モノラルバウンス）といったことが可能です。

### メモ

本機の内部では、いったんミックスダウンを行ってミックスマスターを作成し、これを指定のトラックに録音しています。

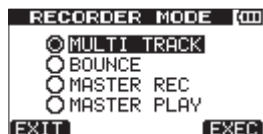


再生トラック自身に録音した場合は、当然、元の再生トラックは消去されます（上図ではトラック1と2のドラムパートがミックス信号で上書きされます）。ただし、本機には取り消し（アンドゥ）機能がありますので、誤った操作を行った場合で

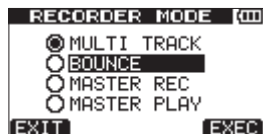
も操作を取り消すことができます（→ 53ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）。

## トラックバウンスを行う

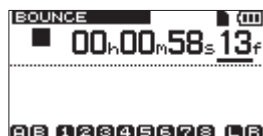
1. REC MODEキーを押して、“RECORDER MODE”画面を表示します。



2. DATAホイールを使って“BOUNCE”項目を反転表示します。



3. F4 “(EXEC)”キーを押します。  
本機がバウンスモードになり、ホーム画面に戻ります。



4. バウンス先のTRACKのRECインジケーターを点滅させます。  
ステレオバウンスする場合は、2つのTRACKのRECインジケーターを点滅させます。モノラルバウンス（単一トラックにバウンス）の場合は、いずれか1つのTRACKのRECインジケーターを点滅させます。

## 第7章 レコーダー機能

5. バウンス元になる**TRACK**の**LEVEL**つまみと**PAN**つまみを調整します。

ステレオバウンスの場合は、若いトラックがL側になります。

モノラルバウンスにする場合は、バウンス元となる**TRACK**の**PAN**つまみをLいっぱいに設定します。

**MASTER LEVEL**つまみで全体のレベルを調節します。

6. ソングの冒頭にロケートしてから、**録音**【●】キーを押しながら**再生**【▶】キーを押します。  
トラックバウンスが実行されます。

### 結果を確認する

バウンス元のトラックをミュートして（→51ページ「トラックのミュート」）、ソングの冒頭から再生します。

楽器のバランスが良くない、あるいはパン設定が良くないなど、結果に満足できない場合は、**アンドゥ**を実行します。（→53ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

結果に満足したら、**REC MODE**キーを押して“**RECORDER MODE**”画面を表示し、“**MULTI TRACK**”を選択し、**HOME**キーを押してホーム画面に戻します。

トラックバウンス後、バウンスしたトラック以外のトラックには、新たな音を録音（上書き）することができます。

### ヒント

後からオリジナルトラックが必要になる可能性がある場合は、バウンス（ピンポン録音）の前にトラックデータをパソコンにバックアップしたり、ソングのコピーを作成しておいてください。（→41ページ「ソングをコピーする」）  
（→77ページ「パソコンと接続する」）

## ロケート／サーチ機能

### ダイレクトロケート機能

本機のディスプレイ上部には、レコーダーの現在位置「時：分：秒：フレーム」として時間表示されています（30フレームで1秒）。

この時間表示部に指定の時間を入力することによって、レコーダーの現在位置を移動することができます。

1. ホーム画面で、**HOME**キーを使って、時間桁間でカーソル（下線）を移動します。  
カーソル位置の桁の値を編集することができます。  
下図の例では「秒」桁が選択されています。

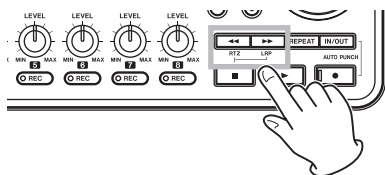


2. **DATA**ホイールを使ってカーソル桁の値を変えます。それぞれの桁は自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえば、プラス方向に**DATA**ホイールを回転して“59秒”から“0”秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。**DATA**ホイールを使うと時間表示が点滅します。レコーダーが表示の位置に移動すると点滅が止まります。
3. 別の桁を編集するには、**HOME**キーを使って桁を移動し、**DATA**ホイールを使って値を変更します。
4. 希望の時間値を設定後、**再生**【▶】キーを押すと、その位置から再生が始まります。

## 曲の先頭に戻す (RTZ) / 最後に録音を始めた位置に戻す (LRP)

シンプルなキー操作でソングの先頭、あるいは最後に録音を始めた位置にロケートすることができます。

RTZ、LRPはそれぞれ、Return To Zero、Last Recording Positionの意味です。



ソングの先頭 (00:00:00:00) に戻るには  
停止 [■] キーを押しながら ◀◀ キーを押します。

最後に録音を始めた位置に戻るには

停止 [■] キーを押しながら ▶▶ キーを押します。  
録音を行った後、録音をやり直したいときなどに  
便利な機能です。

## 早送り／早戻しサーチ

停止中や再生中、◀◀ キーまたは ▶▶ キーを押すと、早戻し、早送りをを行います。

押すたびにスピードが、10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。

## リピート再生

リピート再生機能を使って、繰り返し再生を行うことができます。

リピート範囲は、INポイントとOUTポイントの間です。

## IN / OUTポイントを設定する

INポイントとOUTポイントは、リピート再生の範囲設定に使われるほかに、トラック編集の範囲設定にも使われます。また、OUTポイントはマスタートラック時のマスタートラックの終点として使われます。

## IN / OUT ポイントを取り込む

停止中、再生中、録音中のいずれでも、IN / OUTポイントを取り込む (キャプチャーする) ことができます。

1. IN/OUTキーを押して、“I/O SETTING” 画面を表示します。



2. (停止中、再生中、録音中にかかわらず) レコーダーが希望の位置にあるときに、F3 “[IN]” キーまたはF4 “[OUT]” キーを押します。  
“SET IN !” または “SET OUT !” と、取り込んだ時間がポップアップ表示されます。



[ SET IN の場合 ]



[ SET OUT の場合 ]

## ヒント

ホーム画面表示中も、F3キーとF4キーを使ってIN、OUTポイントを取り込む (キャプチャーする) ことができます。

## 第7章 レコーダー機能

### IN / OUT ポイントを編集する

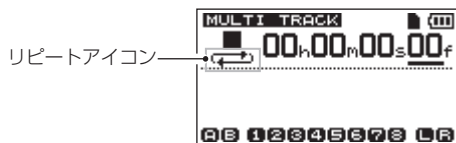
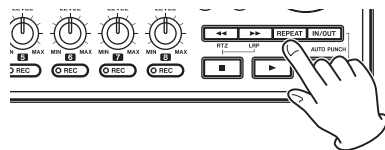
1. “I/O SETTING” 画面表示中（前ページの画面図を参照）、F2 “[EDIT]” キーを押します。  
編集画面に進みます。



2. 以下の要領で、IN / OUTポイントの値を編集します。

- F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使って、INポイントとOUTポイント間のカーソル移動を行います。
- ◀◀キーと▶▶キーを使って時間桁間のカーソル移動を行います。
- DATAホイールを使ってカーソル位置の値を変更します。

3. 編集が終了したらHOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。



INポイントから再生が始まり、OUTポイントまで来ると、あらかじめ設定した間隔（リピートインターバル）を置いてから、再びINポイントからの再生が始まります。

以後、INポイントとOUTポイント間を繰り返し再生します。

3. リピート再生を解除するには、REPEATキーを押して、ホーム画面上のリピートアイコンを消灯します。  
なお、以下に述べる方法で、OUTポイントまで再生してから再び再生を始めるまでのリピートインターバルを設定します。

### リピート再生の間隔を設定する

リピートの間隔（リピートインターバル）を1.0秒～9.9秒の範囲で設定することができます。

1. MENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“PREFERENCE”メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“PREFERENCE” 画面が表示されます。
3. F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使って“Repeat Int” 項目の設定値を反転表示し、DATAホイールを使って値を設定します。  
1.0秒～9.9秒の範囲（0.1秒単位）で設定できます。初期値は“1.0sec”です。

### メモ

以下の場合、IN / OUTポイントの取り込みや編集ができません。

- リピート再生中
- オートパンチイン／アウトモード中
- レコーダーモードが“MASTER REC”モードまたは“MASTER PLAY”モード中

### リピート再生を実行する

1. リピートしたい区間の始点と終点を、それぞれINポイントとOUTポイントとして設定し、設定後、ホーム画面に戻します。
2. REPEATキーを押します。  
ホーム画面上にリピートアイコンが点灯し、リピート再生が始まります。



4. 設定が終了したらHOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

## INポイント／OUTポイントへのロケート

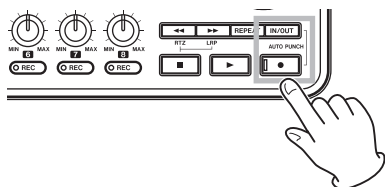
ホーム画面表示中に、**STOP**キーを押しながら、**F1**キーを押すとINポイントにロケートします。**STOP**キーを押しながら、**F2**キーを押すとOUTポイントにロケートします。

## オートパンチン／アウト

INポイントとOUTポイントが設定されているとき、**録音【●】**キーと**IN/OUT**キーを同時に押すと、オートパンチン／アウトモードに入ります。オートパンチンイン／アウトモードには、リハーサル機能があります。これは、実際には録音はしませんが、INポイントとOUTポイントを間を、実際に録音したときと同様のモニターができる機能です。

### リハーサル

1. オートパンチン／アウトしたい**TRACK**の**REC**キーを押します。
2. INポイントとOUTポイントを設定後、**録音【●】**キーと**IN/OUT**キーを同時に押し、オートパンチン／アウトモードにします。



3. **再生【▶】**キーを押します。INポイントの2秒前から再生が始まり、INポイントでモニター音が、トラック再生音+入力音から入力音のみに切り換わります。このときIN/OUT間で録音インジケータが点滅します。その後OUTポイントでモニター音が、トラック再生音+入力音に戻り、録音インジケータが消灯します。OUTポイントの1秒後に自動的に停止します。納得がいくまで、繰り返しリハーサルを行うことができます。

## オートパンチン／アウトの実行

リハーサルが終了したら、実際にオートパンチン／アウトを行います。

1. オートパンチン／アウトモード時に、**録音【●】**キーを押しながら、**再生【▶】**キーを押します。リハーサル時と同様に、INポイントの2秒手前から再生を開始します。INポイントからOUTポイントまでの間、録音インジケータが点灯し、音声は録音されます。
2. OUTポイントの1秒後に自動的に停止し、オートパンチン／アウトモードを抜けてINポイントの2秒前に自動的にロケートします。

### メモ

- リピートモード時および**REC**キーが一つも押されていないときは、オートパンチン／アウトモードに入れません。
- オートパンチン／アウトはアンドゥ可能です。

## 第8章 トラックの編集

従来のテープレコーダーでは、高度のテクニックを必要としたようなトラック編集を、本機では簡単に、しかも正確に行うことができます。さらにテープレコーダーでは、編集に失敗した場合にやり直しができませんでしたが、本機は「ノンデストラクティブ・エディティング(非破壊編集)」という手法を採用し、元のデータを残したまま編集を行っているため、取り消し(アンドゥ)機能によって、簡単に編集をやり直すことができます。(→ 53ページ「実行した操作を取り消す(アンドゥ)」)

### トラック編集の概要

本機には、以下のトラック編集機能があります。

- コピー／ペースト
- コピー／インサート
- ムーブ／ペースト
- ムーブ／インサート
- オープン(無音挿入)
- カット(部分削除)
- サイレンス(部分消去)
- クローントラック(トラック複製)
- クリーンアウト(トラック削除)

### 編集ポイント

トラック編集のうち、コピー／ペースト、コピー／インサート、ムーブ／ペースト、ムーブ／インサートは、IN / OUTポイントおよび編集操作を始めた時の現在位置をTOポイントとし、編集ポイントとして使います。サイレント、カット、オープンでは、INおよびOUTポイントを編集ポイントとして使います。これらのIN / OUTポイントは、リピート再生で使うINおよびOUTポイントと共通です。IN、OUTポイントの設定方法については、「IN / OUTポイントを設定する」(59ページ)をご覧ください。

### ● INポイント

INポイントは、トラック編集対象の始点になります。IN/OUTキーを押し、「I/O SETTING」画面を表示し、F3 “[IN]” キーを押した時間がINポイントとして登録されます。

### ● OUTポイント

OUTポイントは、トラック編集対象の終点になります。

IN/OUTキーを押し、「I/O SETTING」画面を表示し、F4 “[OUT]” キーを押した時間がOUTポイントとして登録されます。

### ● TOポイント

TOポイントは、コピーやムーブ操作におけるペースト先や移動先のポイントになります。

“TRACK EDIT”画面に入る前に停止していた現在位置がTOポイントとなります。

これらのIN/OUT/TOポイントは、各編集画面でも変更が可能です。

### 編集の基本操作

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って“TRACK EDIT”メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。トラック編集メニュー画面が表示されます。



3. DATAホイールを使って希望のトラック編集機能を選択し、F4 “[▶]” キーを押します。  
各編集機能の画面が表示されます。



4. 設定項目の値を選択します。  
複数の設定項目がある場合には、F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使って項目を選択し、DATAホイールを使って値を選択します。

5. F2 “[EXEC]” キーを押して、機能を実行します。

- F1 “[BACK]” キーを押すと、実行しないで  
“TRACK EDIT” メニュー画面に戻ります。

## 各項目の詳細

- SOURCE TRK
- OPEN TRK
- CUT TRK
- SILENCE TRK
- CLEAN OUT TRK

編集元トラックです。

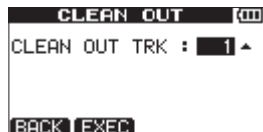
選択肢は、編集機能によって異なります。

- “1” - “8” : シングルトラック
- “1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8” : ペアトラック
- “1-8” : 全トラック
- “MST” : ステレオマスタートラック
- “ALL” : 1 ~ 8トラックおよび

ステレオマスタートラック



[ SOURCE TRK画面 ]



[ CLEAN OUT TRK画面 ]

## ● IN/OUT/TO

編集ポイントです。IN/OUT/TOポイントを編集する場合は、◀◀キーと▶▶キーを使ってカーソルを移動し、DATAホイールで時間を設定します。



[ INポイント編集画面 ]



[ OUTポイント編集画面 ]



[ TOポイント編集画面 ]

## ● DESTINATION TRK

コピー先、挿入先、複製先のトラックを選択します。  
“SOURCE TRK” で何を選択したかによって、選択肢が変わります。

“SOURCE TRK” としてシングルトラックを指定した場合は、“DESTINATION TRK” の選択肢は  
“1” - “8” (シングルトラック) になります。

## 第8章 トラックの編集

“SOURCE TRK”としてペアトラック（たとえば“1/2”）を指定した場合は、“DESTINATION TRK”の選択肢は“1/2” - “7/8”（ペアトラック）になります。

“SOURCE TRK”として“1-8”（全トラック）を指定した場合は、“DESTINATION TRK”の選択肢は“1-8”（全トラック）のみになります。



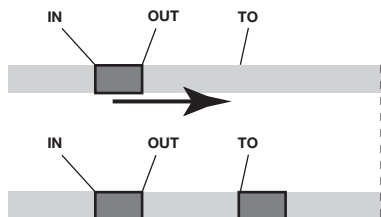
### ● COPY TIMES

コピーしたセクションを何回ペーストするかを選択します。

“1” - “99”の中から選択できます。



## コピー／ペースト



コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイントにペーストします。この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。

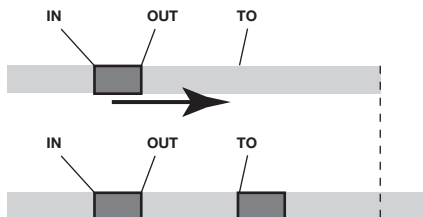
この操作によって、コピー先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、コピー先のトラックの長さは変化しません。

1回の操作で、複数回コピーをすることができます。つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けて上書きコピーされます。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- SOURCE TRK  
（“1” - “8”、“1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8”、“1-8”）
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

## コピー／インサート



コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイントにインサートします。この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。



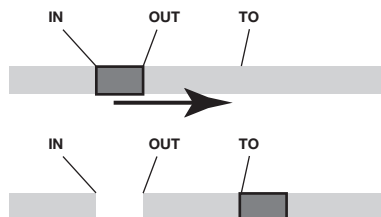
この操作によって、コピー先に録音されていたデータがインサートされます。コピー先のトラックのTO以降に録音されていたデータは、新しい素材がインサートされた分だけ後ろにずれます。したがって、コピー先トラックの長さが長くなります。

1回の操作で、複数回コピーをすることができます。つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けてインサートされます。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- SOURCE TRK  
("1" - "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

## ムーブ／ペースト



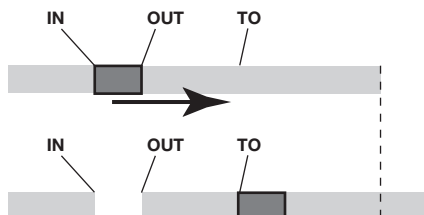
ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、ムーブ先トラックのTOポイント以降に移動します。この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、ムーブ先のトラックの長さは変化しません。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- SOURCE TRK  
("1" - "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK

## ムーブ／インサート



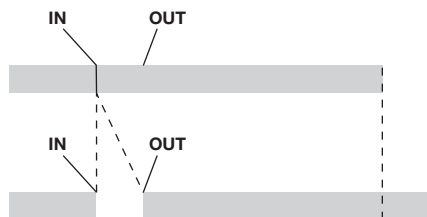
ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータを移動して、ムーブ先トラックのTOポイントにインサートします。この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。

この操作によって、ムーブ先のトラックのTO以降に移動データがインサートされます。したがって、ムーブ先トラックの長さが長くなります。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- SOURCE TRK  
("1" - "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK

### オープン（無音挿入）



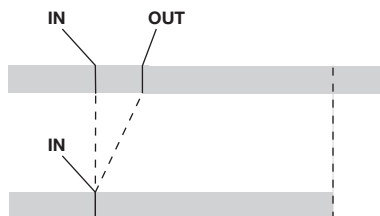
選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間に無音部分を挿入します。

この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがって、トラックの長さが長くなります。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- OPEN TRK  
（“1” - “8”、“1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8”、“1-8”、“ALL”）
- IN/OUT

### カット（部分削除）

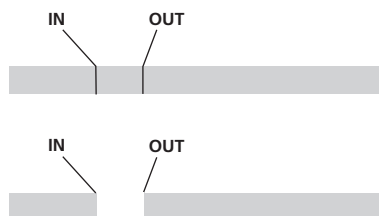


選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間をカット（削除）して、OUTポイント以降のパートを手前に詰めます。したがって、トラックの長さが短くなります。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- CUT TRK  
（“1” - “8”、“1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8”、“1-8”、“ALL”）
- IN/OUT

### サイレンス（部分消去）



選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間を消去します。

INポイントとOUTポイント間に無信号を録音したときと同じです。

この操作では、トラックの長さは変わりません。

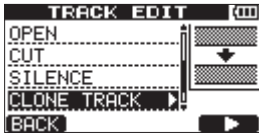
設定パラメーターは、以下の通りです。

- SILENCE TRK  
（“1” - “8”、“1/2”、“3/4”、“5/6”、“7/8”、“1-8”）
- IN/OUT

## ヒント

この機能を使って、短いノイズなどを消すことができます。

## クローントラック(トラック複製)



シングルトラック、ペアトラックまたはマスタートラックを、別のトラックにコピーして、トラックを複製します。トラック全体のコピーですので、IN/OUT/TOポイントは関係ありません。

設定パラメーターは、以下の通りです。

- SOURCE TRK  
("1" - "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"MST")
- DESTINATION TRK

## メモ

"SOURCE TRK" と同じトラックを "DESTINATION TRK" に設定すると、F2 "[EXEC]" キーを押したときにメッセージ ("Same Track") がポップアップ表示され、操作を受け付けません。

## クリーンアウト(トラック削除)



指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN / OUT / TOポイントは関係ありません。

設定パラメーターは、以下の通りです。

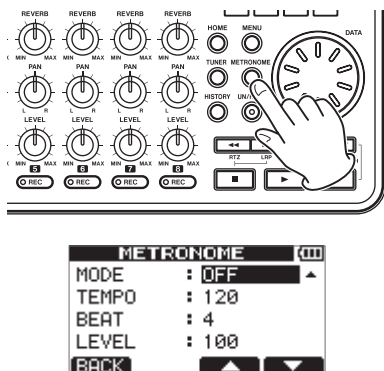
- CLEAN OUT TRK  
("1" - "8"、"1/2"、"3/4"、"5/6"、"7/8"、"1-8")

## 第9章 さまざまな機能

### メトロノーム機能

本機は、メトロノーム機能を内蔵しています。  
メトロノームは、レコーダー走行中に動作します。  
再生時と録音時の両方、または録音時のみ動作するように設定することができます。

1. **METRONOME**キーを押して、“**METRONOME**”画面を表示します。



2. 以下の項目を設定します。

**F3 “[▲]”** キーと **F4 “[▼]”** キーを使って項目を選択し、**DATA**ホイールを使って値を選択します。

#### MODE

“**OFF**”（初期値、メトロノーム機能オフ）、  
“**REC&PLAY**”（録音／再生時にメトロノームが動作）、  
“**REC ONLY**”（録音時のみ、メトロノームが動作）の中から選択します。

#### TEMPO

スピードを設定します。

“**20**” ～ “**250**”（BPM）の範囲で設定できます。

初期値は “**120**” です。

#### BEAT

拍子を設定します。

拍子の1拍目にアクセントが付きます。

拍子は、“**1**” ～ “**12**” の範囲で設定できます。  
初期値は “**4**” です。

#### LEVEL

メトロノームの音量を設定します。

“**0**” ～ “**100**” の範囲で設定できます。

初期値は “**100**” です。

3. 設定が終了したら、**HOME**キーを押してホーム画面に戻します。

手順2.で行った “**MODE**” 設定に従って、メトロノームが動作します。

なお、録音時にメトロノームが動作しても、メトロノーム信号は録音されません。

### メモ

- メトロノーム動作時、外部接続されたスピーカーでメトロノーム音をモニターし、マイクを使って録音すると、メトロノーム音も録音されます。
- メトロノーム動作中、“**METRONOME**”画面で “**LEVEL**” の調節を行うことができますが、他の項目は変更できません。
- レコーディングの最初にベーシックトラック（リズムギター、ベースなど）を録音するとき、メトロノームをガイドクリックとして使うことができます。
- メトロノームを使って練習をするときは、何も録音されていないソングを再生するか、または各**TRACK**の**LEVEL**つまみを下げた状態でソングを再生します。

### チューナー機能

内蔵のクロマチックチューナーを使ってギターや管楽器のチューニングすることができます。

本機のチューナーには、チューニングメーターを見ながら楽器のチューニングができる、クロマチックチューナーモードと、基準音を出力するオシレーターモードがあります。

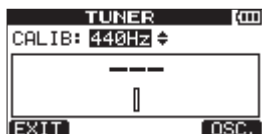
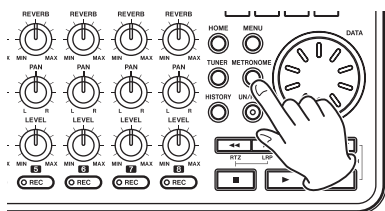
## クロマチックチューナーモード

1. ギターまたはベースを**INPUT A**端子に接続します。**INPUT B**端子に接続してもチューニングできません。  
管楽器などをチューニングする場合は、内蔵**MIC A**を使ってチューニングをします。
2. “**INPUTSETTING**” 画面で、“**INPUT A**”の入力ソースを“**GUITAR/LINE**”に設定します。  
(→ 44ページ「入力ソースを選択する」)

### メモ

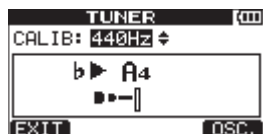
内蔵マイクを使用する場合は、“**INPUT SETTING**”画面で“**Internal MIC**”を選択します。

3. レコーダーが停止中に**TUNER**キーを押して、“**TUNER**”画面を表示します。  
“**CALIB**”項目（基準周波数）の値が反転表示されています。

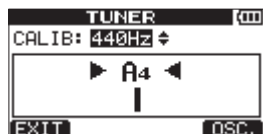


4. **DATA**ホイールを使って、A音の基準周波数を設定します。  
‘435Hz’～‘445Hz’の範囲で設定できます。  
初期値は“440Hz”です。

5. 楽器を弾いてチューニングを行います。  
弾いた音に最も近い音名がチューニングメーター上部に表示されます。  
合わせたい音名が表示されて、チューニングメーター中央部が点灯するように楽器をチューニングします。  
チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。



ぴったり合うと音名の左右の“▶◀”が点灯します。



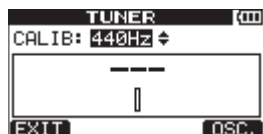
6. チューニングが終了したら、**HOME**キーを押してホーム画面に戻します。

### メモ

入力音をモニターしたい場合は、“**INPUT A**”がアサインされている**TRACK**の**REC**キーを押します。

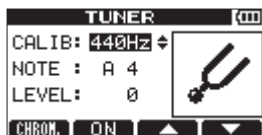
## オシレーターモード

1. レコーダーが停止中に**TUNER**キーを押して、“**TUNER**”画面を表示します。



## 第9章 さまざまな機能

2. F4 “[OSC.]” キーを押して、オシレーター画面を表示します。



“TUNER” 画面では、以下の設定ができます。

### CALIB

A4 (ラ) の基準周波数を調節します。

設定範囲は “435Hz” ～ “445Hz” です。

初期値は “440Hz” です。

### NOTE

出力する音を設定します。

設定範囲は “C3” ～ “B5” です。

初期値は “A4” です。

### LEVEL

出力レベルを設定します。

設定範囲は “10” (最小) ～ “100” (最大) です。

初期値は “100” です。

F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使ってパラメーターを選択し、DATAホイールでパラメーターを設定します。

F2 “[ON]” キーで出力のオン/オフを行います。

F1 “[CHROM.]” キーでクロマチックチューナーモードに移行します。

3. チューニングが終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

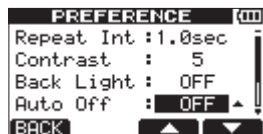
## 電源のオートオフ機能

電池駆動時、最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定することができます。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。

2. DATAホイールを使って “PREFERENCE” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。“PREFERENCE” 画面が表示されます。

3. F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使って “Auto Off” 項目の設定値を反転表示し、DATAホイールを使って以下の中から値を選択します。



選択肢: “OFF” (初期値、自動オフしない)、“3min”、“5min”、“10min”、“30min”

4. 設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

## プリファレンス設定を初期値に戻す

“PREFERENCE” 画面の設定とバックアップメモリー項目 (90ページ) を初期状態 (工場出荷時の状態) に戻すことができます。この操作をインシャライズと呼びます。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。

2. DATAホイールを使って “PREFERENCE” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。“PREFERENCE” 画面が表示されます。

3. F3 “[▲]” キーとF4 “[▼]” キーを使って “Initialize” 項目の “Exec” を反転表示し、F2 “[EXEC]” キーを押します。



4. 確認メッセージがポップアップ表示されますので、F3 “(YES)” キーを押します。



イニシャライズが実行され、完了後、“PREFERENCE” 画面に戻ります。

## メモ

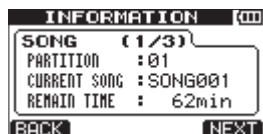
イニシャライズを実行しない場合は、F4 “(NO)” キーを押します。

5. 設定が終了したら、HOMEキーを押してホーム画面に戻します。

## 情報を見る

カレントソング、SDカード、ファームウェアの情報を確認することができます。

1. MENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “INFORMATION” 項目を反転表示し、F4 “(▶)” キーを押します。“INFORMATION” 画面の “SONG (1/3)” ページが表示されます。

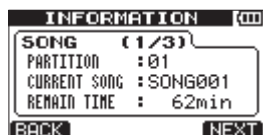


“INFORMATION” 画面には、このページを含めて3ページあります。

3. F3 “(PREV)” キーとF4 “(NEXT)” キーを使ってページを切り換えます。各ページには、以下の情報が表示されます。

### SONG (1/3) ページ

現在ロード中のソングの名前（タイトル）、所属のパーティション、録音時間



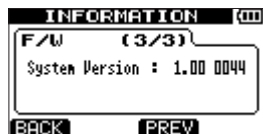
### CARD (2/3) ページ

MTRパーティション構成と各容量、FATパーティションの容量



### F/W (3/3) ページ

システムのファームウェアバージョン



# 第10章 SDカードの管理

## パーティションの概要

「パーティションとソング」(38ページ)でも述べたように、本機でフォーマットしたSDカードは、パーティションに仕切られています。

パーティションには、録音データ(ソング情報)を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。

MTRパーティションは、複数存在する場合があります。この場合は、ソングのタイプごとにMTRパーティションを分けて使ったり、ソング情報を、保管などの目的のために別のMTRパーティションにコピーすることができます。

FATパーティションは、FAT32形式によるフォーマットで、本機とUSB接続したパソコンから読み込むことができます。パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートする場合、あるいは本機のソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行われます。そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには、2段階の操作が必要です。

なお、必要に応じてカード全体のフォーマットやパーティション毎のフォーマット、あるいはパーティションの仕切り直し(リパーティション)を行うことができます。

### 注意

フォーマットとリパーティションは、操作の取り消し(アンドウ)ができません。

### メモ

- FATフォーマット(File Allocation Table)は、パソコンで読むことができるディスクフォーマットです。
- 使用できるカードは、512MB以上のSDカードおよびSDHCカードです。

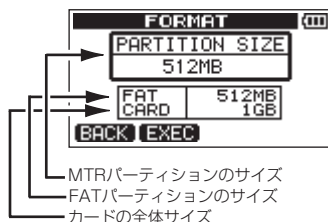
## カードをフォーマットする

この操作では、カード全体をフォーマットします。その際、容量の大きいカードでは、本機のMTRパーティションのサイズを設定することができます。

### 注意

この操作によってカード全体のデータが消去されます。取り消し(アンドウ)はできません。フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“**MENU**” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って“**CARD**”メニューを反転表示し、**F4** “[▶]”キーを押します。“**CARD**”メニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って“**FORMAT**”項目を選択し、**F4** “[▶]”キーを押します。“**FORMAT**”画面が表示されます。



MTRパーティションのサイズ  
FATパーティションのサイズ  
カードの全体サイズ

次の表は、SDカードの容量別に、FATパーティションサイズとMTRパーティションサイズを示しています。

カード容量によってFATパーティションのサイズが決まります。MTRパーティションサイズは、



4GB以下のカードでは固定ですが、8GB 以上のカードでは選択可能です。

ただし、最後の1つは残った容量で作られますので、サイズが異なります。

## カード容量とパーティションサイズ

カード容量	FATパーティションサイズ	MTRパーティションサイズ
32GB	4GB	2GB、4GB、8GB、16GBから選択
16GB	4GB	2GB、4GB、8GBから選択
8GB	2GB	2GB、4GBから選択
4GB	2GB	2GB固定
2GB	1GB	1GB固定
1GB	512MB	512MB固定
512MB	256MB	256MB固定

4. (カード容量が8GB以上の場合) **DATA**ホイールを使ってMTRパーティションサイズを選択し、**F2 “[EXEC]”** キーを押します。

すべてのソングが消去されることを警告するメッセージがポップアップ表示されます。



5. **F3 “[YES]”** キーを押します。

カードがフォーマットされます。たとえば、16GBのカードをMTRパーティションサイズ4GBでフォーマットを行った場合は、4GBのFATパーティションを除いた12GBがMTRパーティション用に使われ、4GBのパーティションが2つと、残りの3GBのパーティションが1つ作成されます。(本機における1GBは1024MBです。したがって、本機のパーティションの表示サイズの合計がカードの表示サイズと一致しない場合があります。)

- フォーマットが終わると、“**CARD**”メニュー画面に戻ります。
- フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。
- フォーマットを取りやめる場合は、**F4 “[NO]”** キーを押します。

## MTRパーティションを再フォーマットする

希望のMTRパーティションを再フォーマットすることができます。パーティションサイズを変更する必要がなく、特定のパーティションのみをフォーマットしたい場合にこの機能を使います。

### 注意

この操作は取り消し(アンドゥ)ができません。選択したパーティション内のすべてのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中に**MENU**キーを押して、“**MENU**” 選択画面を表示します。
2. **DATA**ホイールを使って“**CARD**”メニューを反転表示し、**F4 “[▶]”** キーを押します。“**CARD**”メニュー画面が表示されます。
3. **DATA**ホイールを使って“**REFORMAT**”項目を選択し、**F4 “[▶]”** キーを押します。“**REFORMAT**”画面が表示されます。



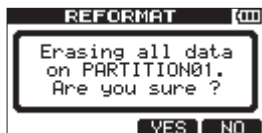
## 第 10 章 SD カードの管理

MTRパーティションのリストがパーティションのサイズ（空き容量ではありません）とともに表示されます。

アクティブパーティションには“\*”が付いています。

4. DATAホイールを使って、再フォーマットしたいパーティションを反転表示し、F2 “[EXEC]” キーを押します。

パーティション上のデータがすべて消えることを警告するメッセージがポップアップ表示されます。



5. F3 “[YES]” キーを押します。  
パーティションが再フォーマットされます。

- 再フォーマットが終わると、“CARD” メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されます。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、F4 “[NO]” キーを押します。

## FATパーティションを再フォーマットする

FATパーティションのみを再フォーマットすることができます。FATパーティションのサイズは変更できません。

### 注意

この操作は取り消し（アンドゥ）ができません。FATパーティションのすべてのデータが消えます。再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “CARD” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“CARD” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “FAT REFORMAT” 項目を選択し、F4 “[▶]” キーを押します。  
FATパーティション上のデータがすべて消えることを警告するメッセージがポップアップ表示されます。



4. F3 “[YES]” キーを押します。  
FATパーティションが再フォーマットされます。

- 再フォーマットが終わると、“CARD” メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、F4 “[NO]” キーを押します。

## カードをイニシャライズする

本機で使用したSDカードを他の機器で使用する場合は、イニシャライズを行うことをお勧めします。SDカードのイニシャライズを行うと、カード全体がFAT32形式でフォーマットされます。

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “CARD” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。“CARD” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “SD INITIALIZE” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。カード上のデータがすべて消えることを警告するメッセージがポップアップ表示されます。



4. F3 “[YES]” キーを押します。カード全体がイニシャライズされ、FAT32形式でフォーマットされます。

- イニシャライズを取りやめる場合は、F4 “[NO]” キーを押します。

### 注意

イニシャライズ後、再びDP-008で使用する場合は、カードのフォーマットが必要です。( → 72ページ「カードをフォーマットする」)

# 第11章 パソコンを使ったデータ送受信

本機とパソコンをUSB接続することで、本機のソング情報をパソコンに保存（バックアップ）したり、バックアップしたソング情報を本機に戻す（リストアする）ことができます。また、ソング内のトラックファイルやステレオマスターファイルをパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のオーディオファイルを本機にインポートすることができます。

バックアップしたデータは、自分のDP-008以外のDP-008にリストアすることができます。このようにDP-008間でのファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所での追加録音やミックスダウンを行うことも簡単にできます。

## 注意

SDカードを本機から抜いてカードリーダーでパソコンにデータのバックアップを行う場合は、必ず本機の電源をオフにしてからカードを抜くようにしてください。

## メモ

- ソングファイルが記録されているMTRパーティションにパソコンから直接アクセスすることはできません。
- 本章の説明の中で「パソコン」と表記する場合、本機が対応しているWindowsまたはMacintoshのパーソナルコンピュータを指します。（→ 76ページ「必要なパソコンシステム」）

本機では、以下のデータをパソコンに転送することができます。

## ● ソング全体

本機では、ソング全体のデータをFATパーティション内の《BACKUP》フォルダからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。また、パソコンにバックアップしたデータをFATパーティション内の《BACKUP》フォルダに転送し、ソングファイルとして復元することができます。この操作を「リストア」と呼びます。

## ● WAVフォーマットのトラック

トラックをWAVファイルに変換してパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のWAVファイルを本機にインポートすることができます。WAVファイルは、本機のFATパーティション上の《WAVE》フォルダに格納されます。

## ● ステレオマスターファイル

本機のステレオマスタートラックを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティション上の《WAVE》フォルダから）パソコンに転送することができます。エクスポートのみが可能です。

## 必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

## ● Windows

Windows XP、Windows Vista、Windows 7

## ● Mac OS X

Mac OS X 10.2 以上

本機とパソコンを接続すると、パソコンは本機をリムーバブルディスクとして認識します。専用のドライバーは不要です。

## メモ

本機とパソコン間のデータ転送は、USB2.0スピード（最大）で行われます。ご使用のパソコンがUSB1.1の場合は、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。また、USB2.0スピードを得るためには、付属のUSBケーブル、もしくはUSB2.0に対応したケーブルを使用する必要があります。

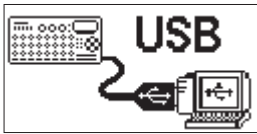
### パソコンと接続する

本機のFATパーティションを使う前に、本機とパソコンをUSB接続します。USB接続中は、録音／再生など本機のレコーダー操作はいっさいできません。

パソコンと接続するには、付属のUSBケーブルを使って、本機の右サイドパネルのUSBポートとパソコンのUSBポートを接続します。

本機の電源をオンの状態でUSB接続しても、USB接続後に本機の電源をオンにしても、どちらも問題ありません。

本機の電源がオンのときにUSB接続を行うと、現在ロード中のソングが保存された後、USB接続が有効になり、本機ディスプレイに以下のような画面が表示されます。



USB接続後に本機の電源をオンにすると、直接上記の画面が表示されます。

パソコンのディスプレイには、《DP-008》という名前の外部ドライブとして表示されます。

TASCAM DP-008のFATパーティション内には、3つのフォルダ、《BACKUP》、《WAVE》、《UTILITY》があります。

#### 注意

- 本機への電源供給は、電池またはACアダプターからとなります。USB経由での電源供給は行いません。
- 電池の残量が少ない状態でUSB接続を行わないでください。

データ転送中に電源が切れた場合は、データが失われます。また、失われたデータは復活することができません。

- 《DP-008》内にある3つのフォルダ名は変更しないでください。
- 本機が認識できるFATパーティション内のファイル数は、ファイルとフォルダを合わせて100個までとなります。100個を超える場合は、パソコン等に移動してください。

#### メモ

- USB接続する前に、パソコンに転送するファイルがすべてFATパーティションにコピーされていることを確認してください。
- 《UTILITY》フォルダは、本機のシステムをアップデートするときなどに使われます。アップデートの方法については、アップデートソフトウェアに添付の説明書をご覧ください。

### 接続を解除する

以下の手順でUSB接続を正しく解除します。

#### メモ

パソコンとの接続を解除することを、パソコン側では「取り出す」または「取り外す」と言います。

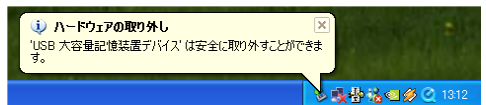
#### 注意

データを転送中にUSB接続を解除したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。パソコンや本機のデータが破壊される可能性があります。

### Windows XP / Windows Vista / Windows 7 の場合

Windows XP、Windows Vista、Windows 7 の場合は、以下の手順で接続を解除します。

システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PCカードのアイコンと矢印があります。



## 第11章 パソコンを使ったデータ送受信

1. このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。パソコンから本機を取り出すには、このポップアップバーをクリックします。
  2. パソコンのディスプレイに、本機を取り出すことができることを告げるメッセージが表示されたら、USBケーブルを外します。  
本機が再起動してディスプレイにホーム画面が表示されます。
- パソコンのディスプレイに、本機を安全に取り出せないことを告げるメッセージが表示された場合は、USBケーブルを外さないでください。本機上のファイルにアクセスしているすべてのコンピュータプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行ってみてください。

### Macintosh の場合

1. 本機のアイコン《DP-008》をゴミ箱にドラッグするか、Command + E 操作を行って、DP-008を「取り出し」ます。

### ヒント

OSバージョンによっては、Finderウィンドウに表示される《DP-008》のイジェクトアイコンをクリックしたり、Controlキーを使った操作を行って、取り出すこともできます。

2. アイコンがデスクトップから消えたら、USBケーブルを外します。  
本機が自動的に再起動してディスプレイにホーム画面が表示されます。

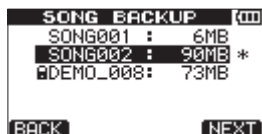
## ソングのバックアップとリストア

ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。ソングのリストアは、これと逆のプロセスになります。つまり、パソコンから本機のFATパーティションへ転送し、ソングファイルを復元します。

### ソングをバックアップする

バックアップを開始する前に、バックアップするソングを含むMTRパーティションが選択されていることを確認してください。(→ 38ページ「アクティブパーティションを変更する」)

1. レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
2. DATAホイールを使って “DATA BACKUP” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“DATA BACKUP” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って “SONG BACKUP” 項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
ソングリストが表示されます。



4. DATAホイールを使ってバックアップしたいソングを反転表示し、F4 “[NEXT]” キーを押します。  
バックアップするソングのファイル名を設定する画面が表示されます。



5. ◀◀キーと▶▶キー、DATAホイール、F3 “[INS)” キーとF4 “[DEL)” キーを使って、ソングの名前（最大8文字）を付けます。（→ 39ページ「名前の編集」）

6. 名前を付けたら、F2 “[EXEC)” キーを押します。ソングがアクティブパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます（拡張子 “.001” が付加されます）。ディスプレイには、バックアップ中であるポップアップ表示（“Writing File”）をします。



バックアップが終了すると、ディスプレイの表示が “DATA BACKUP” メニュー画面に戻ります。

## メモ

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空き容量がない場合は、エラーメッセージがポップアップ表示されます。この場合は、本機とパソコンを接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除して、空き容量を確保してください。

7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（→ 77ページ「パソコンと接続する」）
8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの《BACKUP》フォルダからパソコンにバックアップファイルをコピーします。
9. コピーが終了したら、USB接続を解除します。（→ 77ページ「接続を解除する」）

## 注意

- バックアップしたソングのファイル名をパソコン上で変更するときは、ファイル名が半角英数字で8文字以内になるようにしてください。

- 拡張子は、変更しないでください。

## ソングをリストアする

リストアは、基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンから本機にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

1. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（→ 77ページ「パソコンと接続する」）
2. パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルを本機のFATパーティションのBA《BACKUP》フォルダにコピーします。
3. コピーが終了したら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。（→ 77ページ「接続を解除する」）
4. 本機が自動的に再起動した後、MENUキーを押して “MENU” 選択画面を表示します。
5. DATAホイールを使って “DATA BACKUP” メニューを反転表示し、F4 “[▶)” キーを押します。  
“DATA BACKUP” メニュー画面が表示されます。
6. DATAホイールを使って “SONG RESTORE” 項目を反転表示し、F4 “[▶)” キーを押します。  
FATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。



## 第11章 パソコンを使ったデータ送受信

### メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合は、エラーメッセージがポップアップ表示されます。

7. DATAホイールを使ってリストアップしたいファイルを反転表示し、F2 “[EXEC]” キーを押します。
- 「実際の」ソングの名前（タイトル）と確認メッセージ（“Are you sure?”）がポップアップ表示されます。



### メモ

ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名には、そのスペースは含まれません。

8. F3 “[YES]” キーを押します。
- 現在ロード中のソングが保存された後、手順6で選択したソングがリストアップされ、ロードされます。

### メモ

ディスクの空き容量が足りない場合には、エラーメッセージがポップアップ表示されます。

9. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

## トラックのインポートとエクスポート

パソコンと本機のFATパーティション間で、トラック個別のインポートが可能です。

トラックのインポート／エクスポートに使われるファイルは、WAV形式です（拡張子《.WAV》が

付きます）。

インポートはモノラル／ステレオ、エクスポートはモノラルに対応しています。

別の形式のオーディオを本機にインポートする場合は、事前に16ビット、44.1kHzのモノラル／ステレオWAVファイルに変換する必要があります。

### トラックをインポートする

トラックをインポートする前に、アクティブパーティションとしてインポート先のパーティションが選択されていることと、インポート先のソングがロードされていることを確認してください。

1. 本機とパソコンをUSB接続します。（→ 77ページ「パソコンと接続する」）
2. パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルを本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダにコピーします。

### メモ

コピーするファイルは、半角英数文字のファイル名を持つファイルでなければなりません。

日本語のファイル名を持つファイルをコピーした場合は、後述の手順6で表記されるディスプレイ上のファイル名が表示されないため、インポートすることができません。

3. 本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。（→ 77ページ「接続を解除する」）
  4. 本機が自動的に再起動したら、MENUキーを押して“MENU” 選択画面を表示します。
  5. DATAホイールを使って“IMPORT/EXPORT”メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。
- “IMPORT/EXPORT” メニュー画面が表示されます。



6. DATAホイールを使って、“IMPORT TRACK”項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。FATパーティション上に存在するソングファイルが表示されます。



## メモ

- 本機は、44.1kHz以外のサンプリング周波数のWAVファイルに対応していません。これらのファイルをインポートしても、ディスプレイに表示されません。  
インポート可能なファイルがFATパーティション上にない場合は、“Import File Not Found”がポップアップ表示されます。
- ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名には、そのスペースは含まれません。

7. DATAホイールを使って、インポートするWAVファイルを選択し、F2 “[NEXT]” キーを押します。  
ディスプレイに、現在のアクティブパーティションの空き容量および選択したWAVファイルのサイズが表示されます。



8. DATAホイールを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、F4 “[EXEC]” キーを押します。  
インポートを開始します。

## メモ

- 十分な空き容量がない場合や、ファイルのフォーマットが間違っている場合など、エラーメッセージがポップアップ表示されます。
  - インポート先のトラックは、空のトラックでなければなりません。  
本機は、FATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このときファイルの先頭がソングの先頭 (“00:00:00:00”) に対応します。  
他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集を行うことができます。( → 62ページ「トラックの編集」)
  - ステレオWAVファイルをインポートする場合は、空のペアトラックが必要となります。
9. インポートが終了したら、HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。

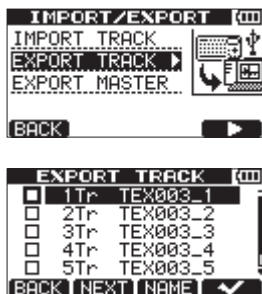
## トラックをエクスポートする

希望のトラックを16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

- レコーダーが停止中にMENUキーを押して、“MENU” 選択画面を表示します。
- DATAホイールを使って “IMPORT/EXPORT” メニューを反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。  
“IMPORT/EXPORT” メニュー画面が表示されます。

## 第 11 章 パソコンを使ったデータ送受信

3. DATAホイールを使って、“EXPORT TRACK”項目を反転表示し、F4 “[▶]” キーを押します。オーディオが記録されているソングトラックのファイルリストがディスプレイに表示されます。ファイル名から元のTRACK番号がわかります。



### ヒント

F3 “[NAME]” キーでファイル名を変更する事ができます。



### メモ

オーディオが記録されていないトラックは、リストに表示されません。

4. DATAホイールを使って、エクスポートするトラックを反転表示し、F4 “[✓]” キーを押して、チェックボックスをチェックします。



複数のチェックボックスをチェックすることにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。  
チェックボックスのチェックを外したいとき

は、そのトラックを反転表示した状態でF4 “[✓]” キーを押します。

5. エクスポートしたいトラックにチェックマークを付け終わったら、F2 “[NEXT]” キーを押します。

FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先）の空き容量およびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。



6. F4 “[EXEC]” キーを押します。

選択したトラックが、編集した名前に拡張子《.WAV》を付加したトラックファイル名でFATパーティションにエクスポートされます。以前に同じ名前のトラックファイルをエクスポートしている場合は、確認メッセージ（“Duplicate name — Are you sure?”）がポップアップ表示されます。F3 “[YES]” キーを押すと上書きされます。



7. HOMEキーを押して、ホーム画面に戻します。
8. 本機とパソコンを接続します。（→ 77ページ「パソコンと接続する」）
9. パソコン側の操作で、トラックファイルを本機のFATパーティションの《WAVE》フォルダからパソコンにコピーします。
10. トラックファイルをパソコンにエクスポートしたら、本機を正しい手順でパソコンから取り出し、USBケーブルを外します。（→ 77ページ「接続を解除する」）

## ステレオマスタートラックを エクスポートする

マスタリングを終了したステレオマスタートラック (→ 51 ページ「マスタリング」) をパソコンにエクスポートすることができます。新しいステレオマスタートラックを作成するとき、既存のステレオマスタートラックは上書きされますので、複数の異なるステレオマスタートラックを残しておきたい場合は、パソコンに保存するとよいでしょう。以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、ステレオマスタートラックをエクスポートするソングが現在ロードされていることと、ステレオマスタートラックが作成されていることを確認してください。

1. レコーダーが停止中に **MENU** キーを押して、**"MENU"** 選択画面を表示します。
2. **DATA** ホイールを使って **"IMPORT/EXPORT"** メニューを反転表示し、**F4** **"[▶]"** キーを押します。  
**"IMPORT/EXPORT"** メニュー画面が表示されます。
3. **DATA** ホイールを使って、**"EXPORT MASTER"** 項目を反転表示し、**F4** **"[▶]"** キーを押します。  
初期設定のファイル名が表示されます。この状態で編集が可能です。



エラーメッセージがポップアップ表示されます。

4. **◀◀** キーと **▶▶** キー、**DATA** ホイール、**F3** キーと **F4** キーを使って、エクスポートするステレオマスターファイルの名前を編集します。(→ 39 ページ「名前の編集」)
5. ファイル名の編集が終了したら、**F2** **"[EXEC]"** キーを押します。  
16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスタートラックがFATパーティションにエクスポートされます。エクスポートされたファイルは、上記手順4.で編集した名前に拡張子 **《.WAV》** を付加したファイル名になります。  
以前に同じ名前のステレオマスタートラックをエクスポートしている場合は、確認メッセージ (**"Duplicate name — Are you sure?"**) がポップアップ表示されます。  
**F3** **"[YES]"** キーを押すと上書きされます。



### メモ

エクスポートをキャンセルしたい場合は、**F1** **"[BACK]"** キーを押します。

6. **HOME** キーを押して、ホーム画面に戻します。
7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。(→ 77 ページ「パソコンと接続する」)
8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの **《WAVE》** フォルダ内のステレオマスターファイルをパソコンにコピーします。
9. ファイルのコピーが終了したら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。(→ 77 ページ「接続を解除する」)

### メモ

ステレオマスタートラックが存在しない場合は、

## 第 12 章 トラブルシューティング

本機を使って作業しているとき、思いどおりに動作してくれなかったり、どうしてもわからないような場合は、まずこのトラブルシューティングをご覧ください。「よくあるトラブル」とそれに対する「考えられる原因」が書かれています。また、85ページ「メッセージ」には、ディスプレイにポップアップ表示されるメッセージの内容／意味が表にまとめてあります。行った操作に対して、メッセージがポップアップ表示されて本機が操作を受け付けられない場合は、この表を参考にしてください。

### 再生しているのに音が出ない



- **TRACK**の**LEVEL**つまみは、適正なレベルまで上がっていますか？
- **MASTER LEVEL**つまみは、適正なレベルまで上がっていますか？
- **PHONES**端子または**LINE OUT**端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？  
また、モニターシステムが正しく設定されていますか？
- **VOLUME**ダイヤルが適正なレベルまで上がっていますか？（**PHONES**端子のみ）

### 録音しようとする音が歪んで聞こえる



- 本機のトップパネルの**INPUT A**または**INPUT B**の**TRIM**つまみが上がりすぎていませんか？  
あるいは入力ソースのレベルが高すぎませんか？
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいますか？

### 録音ができない



- **録音【●】**キーを押しながら**再生【▶】**キーを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか一つの**TRACK**が録音待機状態（**REC**インジケーター点滅）になっていますか？
- 入力チャンネルがトラックにアサインされていますか？（→ 46ページ「入力をアサインする」）

### パソコン上に本機のファイルが表示されない



- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？（→ 77ページ「パソコンと接続する」）
- USB接続する前に、**FAT**パーティションにソング、トラックまたはステレオマスタートラックをバックアップまたはエクスポートしてありますか？（パソコンからは、直接**MTR**パーティション内のファイルを読むことはできません。）

### ACアダプターで使用时、パッシブタイプのギターやベースを直接接続したときにノイズが発生する。



- 本機のライン出力（**LINE OUT**）端子を他の機器に接続すると、ノイズが軽減される場合があります。
- 他の機器から妨害ノイズの影響などを受けている可能性があります。近くにパワーアンプなど大型のトランスを持つ機器や蛍光灯などがある場合は、これらの機器との間隔や方向を変えることにより、ノイズが軽減される場合があります。

# 第 13 章 メッセージ

以下のメッセージの一覧表を示します。DP-008では、状況に応じたメッセージがポップアップ表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Emptry Export Track	「エクスポートトラックに録音されたデータがありません。」 何も録音されていないトラックをエクスポートしようとするときポップアップ表示されます。( → 80ページ「トラックのインポートとエクスポート」) 別のトラックをエクスポートしてください。
File Not Found	「ファイルが見つかりません。」 FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストアしようとするときポップアップ表示されます。( → 78ページ「ソングのバックアップとリストア」)
I/O Too Short	「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」 リピートモードに入ろうとするときにINポイントとOUTポイントが近すぎるとポップアップ表示されます。 INポイントとOUTポイントを2フレーム以上離してください。
Import File Not Found	「インポートするファイルが見つかりません。」 WAVファイルのないFATパーティションからWAVファイルをインポートしようとしています。( → 80ページ「トラックをインポートする」) 本機をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機のFATパーティションに転送してください。
Inport File Too Large	「インポートするファイルが大きすぎます。」 アクティブパーティションの空き容量より容量の大きいWAVファイルをFATパーティションからインポートしようとしています。 アクティブパーティション内の不要なファイルを削除して空き容量を増やしてから再度インポートを試みてください。
In Bounce Mode	「バウンスモード中です。」 バウンスモード中に禁止操作をしようとしたときにポップアップ表示されます。
In Master Mode	「マスタリングモード中です。」 マスタリングモード中に禁止操作をしようとしたときにポップアップ表示されます。
In Repeat Mode	「リピートモード中です。」 リピートモード中に禁止操作をしようとしたときにポップアップ表示されます。
In Punch Mode	「パンチイン／アウトモードです。」 パンチイン／アウトモード中に禁止操作をしようとしたときにポップアップ表示されます。

## 第 13 章 メッセージ

メッセージ	内容と対処方法
Master Track Not Found	「マスタートラックが見つかりません。」 ステレオマスタートラックがソング内に録音されていないときにステレオマスタートラックをエクスポートしようするとポップアップ表示されます。(→ 83ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」) ソングをマスタリングしてから、ステレオマスタートラックをエクスポートしてください。
Master Track Too Large	「マスタートラックが大きすぎます。」 FATパーティションの空き容量より大きなステレオマスタートラックをエクスポートしようとしています。(→ 83ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」) FATパーティションをフォーマットするか(→ 74ページ「FATパーティションを再フォーマットする」)、本機器をパソコンに接続して、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
No Armed Track	「録音待機トラックがありません。」 1つ以上のトラックを録音待機状態にしないでオートパンチイン/アウトモードに入ろうとしています。(→ 61ページ「オートパンチイン/アウト」) 録音待機トラックを設定してから、オートパンチイン/アウトモードにいらしてください。
No Disk Space	「空き容量がありません。」 パーティションパーティションに十分な空き容量がないときにソングを作成しようすると、このメッセージがポップアップ表示されます。 ソングを消去するか(→ 42ページ「ソングを消去する」)カードをフォーマット(→ 72ページ「カードをフォーマットする」)するなどして、空き容量を確保してください。
No Master Trk	「マスタートラックが存在しません。」 トラックのクローンを作るとき、存在しないマスタートラックをソースとして選択しようするとポップアップ表示されます。(→ 67ページ「クローントラック(トラック複製)」) マスタートラックを作るか、または別のソースを選択してください。
No Song	「ソングがありません。」 ソングが存在しないパーティションからソングをロードしようとしています。(→ 39ページ「ソングをロードする」) パーティションを変更してください。(→ 38ページ「アクティブパーティションを変更する」)
No Undo Histry	「アンドゥのヒストリーがありません」 アンドゥするような操作が存在しません。(→ 55ページ「操作履歴の消去について」)

メッセージ	内容と対処方法
Not Stopped	「レコーダーが停止していません。」 レコーダーが停止していないとき、たとえば <b>UN/REDO</b> キーのように停止中でないと受け付けられないキーを押すと、このメッセージがポップアップ表示されます。
Now Recording	「レコーディング中です。」 レコーディングを行っているときにメニュー操作を行おうとするとポップアップ表示されます。他にもレコーディング中に受け付けられない操作があります。
Same Track	「同じトラックを指定しています。」 クローントラック設定で、“ <b>Src Trk</b> ” と “ <b>Dst Trk</b> ” とで同じトラックを指定するとポップアップ表示されます。
Song Protected	「ソングがプロテクトされています。」 プロテクトされているソングに変更（録音、編集など）を加えようとするとポップアップ表示されます。（→ 43ページ「ソングをプロテクトする」） 変更を加える前にプロテクトを解除してください。
Too Many songs	「これ以上ソングを作成できません。」 一つのパーティションが持つことができるソングの数は最大250です。 不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。
Track Full	「トラックが録音済みです。」 すべてのトラックが録音されている状態でインポートを実行しようとする とポップアップ表示されます。（→ 80ページ「トラックをインポートする」）
Trk Too Short	「トラックが短すぎです。」 ゼロポジションをOUTポイントに設定してマスタリングを行おうとするとポップアップ表示されます。（→ 51ページ「マスタリング」） OUTポイントを設定し直してください。（→ 59ページ「IN / OUTポイントを設定する」）
No SD Card	「SDカードが挿入されていません。」 電源をオフにしてからSDカードを挿入してください。
Invalid Card	「挿入されているSDカードは、DP-008で使用できないフォーマットです。」 電源をオフにしてから別のSDカードを挿入するか、“ <b>MENU</b> ” → “ <b>CARD</b> ” から “ <b>FORMAT</b> ” してください。
Protected Card	「挿入されているSD CARDは、プロテクトされています。」 録音や編集を行いたい場合は、電源をオフしてSDカードのプロテクトを解除してください。
Card Full	「録音中にSDカードがいっぱいになりました。」
Trk Edit Fail	「トラックエディットに失敗しました。」 ソングを保存してから本体の電源を入れ直して再度トラックエディットを実行してください。

## 第 13 章 メッセージ

メッセージ	内容と対処方法
Battery Empty	「電池が空です。」 電池がほとんど空の状態の時にポップアップ表示されます。 新しい電池に交換するか、別売の専用ACアダプター（PS-P520）を接続してご使用ください。
Battery Low	「電池が空に近いです。」 電池が空に近い状態で録音しようとする時にポップアップ表示されます。 新しい電池に交換するか、別売の専用ACアダプター（PS-P520）を接続してご使用ください。
SD Size Error	「DP-008では、使用できない小さいサイズのSDカードが挿入されています。」 512Mバイト以上のSDカードをご使用ください。
Work Memory Full	「ソングの録音や編集のために必要なワークメモリがいっぱいになりました。」 カードの空き容量が残っていても、1ソングでの長時間録音を行ったり、編集作業を多く行くと発生する場合があります。 ヒストリのクリア（→ 55ページ「操作履歴の消去について」）を実行すると空きワークメモリが増え、作業が続行できる場合があります。 電源をオフすることでも空きワークメモリーが増え、作業が続行できる場合があります。
SD Not Found	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
SD Read Busy	
SD Write Busy	
I/F Error	
FileErr	
Audio Rst Fail	
SaveParam Fail	
Mount Error	
SD-Card Error!	
FX Rx Failed	
FX Busy	



# 第14章 仕様・ブロックダイアグラム

## 定格

### 記録メディア

SDカード (512Mバイト～ 2Gバイト)、およびSDHCカード (4Gバイト～ 32Gバイト)

### ファイルシステム

MTRパーティション：TASCAM オリジナル  
FATパーティション：FAT32

### 内蔵マイク

無指向性、ステレオ

## オーディオ入出力定格

### INPUT A 端子

#### ● XLRタイプ [BALANCED]

コネクター：XLR-3-31  
(1：GND、2：HOT、3：COLD)  
入力インピーダンス：2.4k $\Omega$   
規定入力レベル：-8dBu  
最大入力レベル：+8dBu

#### ● 標準ジャックタイプ [UNBALANCED]

コネクター：6.3mm (1/4") 標準ジャック  
入力インピーダンス：  
10k $\Omega$  以上 (INPUT A切換スイッチをMIC/  
LINEに設定時)  
1M $\Omega$  (INPUT A切換スイッチをGUITARに  
設定時)  
規定入力レベル：-10dBV  
最大入力レベル：+6dBV  
ヘッドルーム：16dB

### INPUT B端子

#### ● XLRタイプ [BALANCED]

コネクター：XLR-3-31  
(1：GND、2：HOT、3：COLD)  
入力インピーダンス：2.4k $\Omega$   
規定入力レベル：-8dBu  
最大入力レベル：+8dBu

#### ● 標準ジャックタイプ [UNBALANCED]

コネクター：6.3mm (1/4") 標準ジャック  
入力インピーダンス：10k $\Omega$ 以上  
規定入力レベル：-10dBV  
最大入力レベル：+6dBV  
ヘッドルーム：16dB

### LINE OUT端子

コネクター：RCA ピンジャック  
規定出力レベル：-10dBV  
最大出力レベル：+6dBV

### PHONES端子

コネクター：3.5mmステレオミニジャック  
最大出力レベル：20mW+20mW以上  
(THD+N 1%以下、32 $\Omega$ 負荷)

## オーディオ性能

### 周波数特性

INPUT (MIC/LINE) → LINE OUT：20Hz  
～ 20kHz

### 歪率

INPUT (MIC/LINE) → LINE OUT：0.05%  
以下

### S/N比

INPUT (MIC/LINE) → LINE OUT：81dB  
以上

## 第 14 章 仕様・ブロックダイアグラム

### 動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト (<http://www.tascam.jp/>) でご確認ください。

#### Windows マシン

Pentium 300MHz 以上  
128MB 以上のMemory  
USBポート (推奨: USB2.0)

#### Macintosh マシン

Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上  
64MB以上のMemory  
USBポート (推奨: USB2.0)

#### 推奨USBホストコントローラー

Intel製チップセット

#### サポートOS

Windows XP、Windows Vista、Windows 7  
Macintosh Mac OS X 10.2 以上

### 一般

#### 電源

単3形電池4本、または専用ACアダプター (PS-P520)

#### 電池持続時間

約5.5時間  
(JEITA 録音時: ファントム電源OFF)  
約6時間 (JEITA 音楽再生時)  
(単3形アルカリ乾電池使用時。使用状況により変動することがあります。)

消費電力: 2.4W

#### 外形寸法

221 x 36 x 126.5mm  
(幅 x 高さ x 奥行き、突起部含まず)

質量: 610g (電池を含まず)

動作温度: 5 ~ 35℃

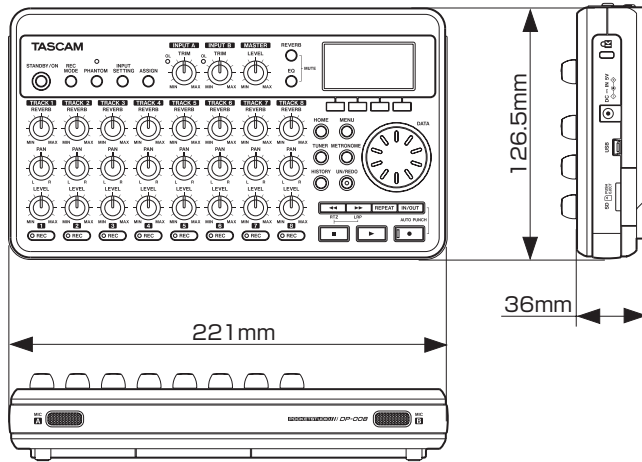
別売アクセサリ: ACアダプター (PS-P520)

### バックアップメモリー

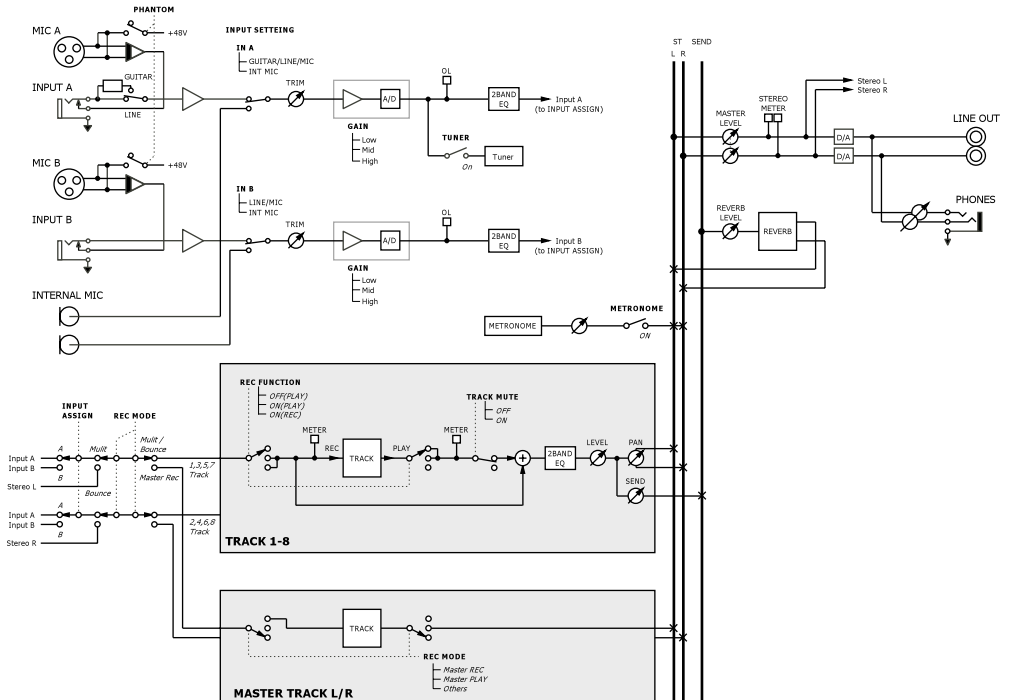
本機は電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

- INPUT SETTING項目 (INPUT EQを除く)
- PREFERENCE項目
  - Contrast
  - Back Light
  - Auto Off
  - FootSW Polarity

## 寸法図



## ブロックダイアグラム



# 第 15 章 こんなことをするには

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。メッセージ一覧と合わせてご利用ください。

- キー名称は、REPEATのように表記します。
- STOP+ ◀◀のような表記は、「STOPキーを押しながら ◀◀キーを押す」という意味です。
- 「MENUキーを押し、“MENU” 選択画面から “CARD” メニューを選択し、“CARD” メニューの中から “FORMAT” 項目を選択する」という操作を「MENU⇨CARD⇨FORMAT」のように表記します。
- 複雑な操作の場合は、全部の操作は表記されていません。

こんなことをしたい	操作方法、使用するキー	詳しくはこちら
FATパーティションをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨FAT REFORMAT	「FATパーティションを再フォーマットする」(74ページ)
IN、OUTポイントを設定したい	"IN/OUT、F3、F4"	「IN / OUTポイントを設定する」(59ページ)
IN、OUTポイントを編集したい	"IN/OUT、F2"	「IN / OUTポイントを設定する」(59ページ)
USB接続を有効にしたい	本機とパソコンをUSB ケーブルで接続します	「パソコンと接続する」(77ページ)
USB接続を解除する	本機をパソコンから切断します	「接続を解除する」(77ページ)
WAVファイルをトラックにインポートしたい	MENU⇨IMPORT/EXPORT⇨IMPORT TRACK	「トラックをインポートする」(80ページ)
アクティブパーティションを変更したい	MENU⇨CARD⇨PARTITION	「アクティブパーティションを変更する」(38ページ)
ギターや管楽器をチューニングしたい	TUNER	「チューナー機能」(68ページ)
現在のアクティブパーティションを知りたい	MENU⇨INFORMATION	「情報を見る」(71ページ)
SDカードの全領域をパソコンで使用可能にしたい	MENU⇨CARD⇨SD INITIALIZE	「カードをイニシャライズする」(75ページ)
SD カードをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨FORMAT	「カードをフォーマットする」(72ページ)
新規ソングを作成したい	MENU⇨SONG⇨CREATE	「新しいソングを作成する」(40ページ)
ステレオマスタートラックを作成したい	REC MODE⇨MASTER REC	「マスタリング」(51ページ)
ステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨IMPORT/EXPORT⇨EXPORT MASTER	「ステレオマスタートラックをエクスポートする」(83ページ)
アンドゥした操作を取り消したい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す (アンドゥ)」(53ページ)
操作を取り消して、以前の状態に戻りたい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す (アンドゥ)」(53ページ)

## 第 15 章 こんなことをするには

こんなことをしたい	操作方法、使用するキー	詳しくはこちら
ソングに名前を付けたい	MENU⇨SONG⇨NAME EDIT	「名前の編集」(39ページ)
ソングのプロテクトを解除したい	MENU⇨SONG⇨PROTECT	「ソングをプロテクトする」(43ページ)
ソングの名前(タイトル)を見たい	MENU⇨INFORMATION	「情報を見る」(71ページ)
ソングをコピーしたい	MENU⇨SONG⇨COPY	「ソングをコピーする」(41ページ)
ソングを削除(消去)したい	MENU⇨SONG⇨ERASE	「ソングを消去する」(42ページ)
ソングをバックアップしたい	MENU⇨DATA BACKUP⇨SONG BACKUP	「ソングのバックアップとリストア」(78ページ)
ソングをプロテクトしたい	MENU⇨SONG⇨PROTECT	「ソングをプロテクトする」(43ページ)
ソングを保存したい	MENU⇨SONG⇨SAVE	「ソングを保存する」(40ページ)
ソングをロードしたい	MENU⇨SONG⇨LOAD	「ソングをロードする」(39ページ)
トラック全体を消去したい	MENU⇨TRACK EDIT⇨CLEAN OUT	「クリーンアウト(トラック削除)」(67ページ)
トラック内に無音パートを挿入したい	MENU⇨TRACK EDIT⇨OPEN	「オープン(無音挿入)」(66ページ)
トラックの一部をカットして詰めたい	MENU⇨TRACK EDIT⇨CUT	「カット(部分削除)」(66ページ)
トラックの一部を無音にしたい	MENU⇨TRACK EDIT⇨SINLENCE	「サイレンス(部分消去)」(66ページ)
トラックを複製したい	MENU⇨TRACK EDIT⇨CLONE TRACK	「クローントラック(トラック複製)」(67ページ)
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨IMPORT/EXPORT⇨EXPORT TRACK	「トラックをエクスポートする」(81ページ)
トラックバウンスをやりたい	REC MODE⇨BOUNCE	「トラックバウンス」(57ページ)
パーティションをフォーマットしたい	MENU⇨CARD⇨REFORMAT	「MTRパーティションを再フォーマットする」(73ページ)
パソコンからソングをリストアしたい	MENU⇨DATA BACKUP⇨SONG RESTORE	「ソングのバックアップとリストア」(78ページ)
別のトラックにピンポン(バウンス)したい	REC MODE⇨BOUNCE	「トラックバウンス」(57ページ)
メトロノームの設定をしたい	METRONOME	「メトロノーム機能」(68ページ)
メトロノームを使いたい	METRONOME	「メトロノーム機能」(68ページ)
録音残時間を知りたい	MENU⇨INFORMATION	「情報を見る」(71ページ)
作成したステレオマスタートラックを聞きたい	REC MODE⇨MASTER PLAY	「マスタリング」(51ページ)

## 第 15 章 こんなことをするには

こんなことをしたい	操作方法、使用するキー	詳しくはこちら
内蔵マイクを使いたい	INPUT SETTING	「入力ソースを選択する」 (44ページ)
ギターを録音したい	INPUT SETTING	「入力ソースを選択する」 (44ページ)
INPUT A/Bをアサインする トラックを変更したい	ASSIGN	「入力のアサインする」 (46ページ)
リピート時のインターバルタイムを変更したい	MENU⇨PREFERENCE	「リピート再生の間隔を設定する」(60ページ)
オートオフ機能を使いたい	MENU⇨PREFERENCE	「電源のオートオフ機能」 (70ページ)
ディスプレイのコントラスト を変更したい	MENU⇨PREFERENCE	「コントラストを調整する」 (37ページ)
リバーブをかけたい	REVERB	「リバーブ」(50ページ)
入力音にEQをかけたい	INPUT SETTING⇨F2	「INPUT EQを使う」 (47ページ)
トラックにEQをかけたい	EQ	「TRACK EQ (イコライザー)」 (49ページ)
ファントム電源を使いたい	PHANTOM	「ファントム電源について」 (44ページ)
トラックの再生音を ミュートしたい	REVERB + EQ	「トラックのミュート」 (51ページ)



## この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 / 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47



**0120-152-854**

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

**電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185**

## 故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。

お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒 358-0026 埼玉県入間市小谷田 858



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

**0570-000-501**

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。

PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

新日電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。

このような場合は、ご契約の新日電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

**電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036**

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

## ティアック株式会社

〒 206-8530 東京都多摩市落合 1-47

<http://www.tascam.jp/>

Printed in China